

名張市

令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

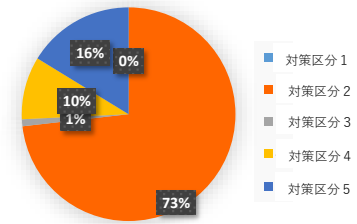
市町名	名張市	三重県
人口 (人)	76,729	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	12.4%	12.4%
森林面積 (ha)	6,835.43	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	6,835.43	348,833.49
森林率 (%)	53.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	13.3	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	危険木伐採事業	3,453,200	3,453,200		3,453,200				
2	5	森林公園等環境活用整備事業	940,000	940,000					940,000	
3	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	503,925	503,925		503,925				
4	2	人家裏危険木伐採事業	2,050,000	2,050,000		2,050,000				
5	4	学校林整備事業	900,000	900,000				900,000		
6	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000			
7	5	桜並木保全管理事業	300,000	300,000					300,000	
8	5	無形民俗文化財保全事業	300,000	300,000					300,000	
9	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	3,711,400	927,850		927,850				
10	5	みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	1,797,025	1,797,025						1,797,025
計			14,055,550	11,272,000	0	6,934,975	100,000	900,000	1,540,000	1,797,025

3. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	39.70ha	13,497,000	13,497,000	災害緩衝林一体型整備事業の実施 (間伐) 名張市 黒田 地内
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.171ha	3,711,400	927,850	名張市 夏秋、夏見 地内で実施

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
<p>名張市は、周囲を山々に囲まれた山間盆地であり、林野率は52.7%、人工林率は65.0%で、森林の主体をなす私有林においては、5ha未満の所有者が全体の52.1%を占めている。特に、南部は森林資源が豊富で、かつては優良な木材を産出する地域であったが、最近の社会情勢の変化に伴い伐採適齢期を過ぎても放置されている森林が増加し、里山としての利用すらほとんどなくなっている。</p> <p>しかし、森林の持つ多様な公益的機能は市民にとってかけがえのない財産であり、名張市が目指そうとする「福祉の理想郷づくり」には欠かせない重要な要素であることから、森林の機能低下を防ぎその向上を図るため、災害に強い森林づくりとして森林整備を進めるとともに、市民が森と緑に触れ合う機会を創出し、森を育む人及び学びの場づくりを進める。</p>
事業実施により期待される効果
<p>「災害に強い森林づくり」に沿った事業の実施により、あまり手入れされることなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことで、市民がより安心して暮らせるようになる。また、森林への関心が高まる今日、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなる。</p>

情報発信への取組

事業内容やその成果については広報誌、ラジオ放送により、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。保育・幼稚園、小学校関連の事業については、保護者だより等で事業実施を周知するとともに財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを記載した。

その他、令和2年度に実施した「森と人をつなぐ憩いの空間作り事業」で名張市役所1階に木製の授乳室を設置し、付近にみえ森と緑の県民税に関するパネルを展示することで、市庁舎を訪れる大勢の方に向けて県民税の周知に努めた。

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑦ その他 (森林整備)	2,530	2,530
2	② 意向調査	1,320	1,320
3	③ 私有林整備	1,239	1,239
4	③ 私有林整備	250	250
5	⑬ 木造公共建築物の整備等	1,014	1,014
6	⑰ 基金積立 (森林整備等)	11,166	11,166
7			
8			
9			
10			
	合計	17,519	17,519

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	危険木伐採事業					
事業費	3,453,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,453,200	0	0	

1. 事業の目的	
市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地 (市有地) にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設や市民の財産を保全し、暮らしの安心・安全を確保する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
市道、通学路、スクールバス通行路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設 (小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館等) の周辺にあって、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行う。また、緑地 (市有地) にあって、台風等により道路や周辺の人家等に倒木の恐れのある危険木の伐採を行う。	
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】	
名張市	
【実施個所及び箇所数】	
市内17箇所	
【事業量】	
危険木伐採89本	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】	
道路施設・公共施設や人家等への倒木を未然に防ぐことにより、市及び市民の財産の保全を図ることができる。 市道の危険木伐採により、台風時等の道路機能の寸断を防ぎ、避難所への経路が確保される。また通学路等の危険木伐採により子供たちの通学の安全・安心が確保される。さらに、公共・公益施設周辺の危険木伐採により、子供たちの学校等での生活における安全・安心と公民館等利用者の安全・安心が確保される。	
【効果を発揮させるための工夫・取組】	
住民からの要望がある箇所で危険度の高いところを選出し事業を実施した。	
【新たな対策・視点及び改善点】	
危険木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。	

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	危険木伐採事業				
事業費	3,453,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,453,200	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	委託事業	造園業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
道路に面した森林において、高度な技術を要する特殊伐採を実施するため、地元造園業者へ委託した。					
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	危険木伐採箇所を通行する名張市民多数			
	期待する波及効果	通行人からの波及効果が期待される			
【公的関与の必要性】					
道路管理として公的に取り組む必要がある					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
道路管理者が適切に管理する					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
広報誌掲載	実施後	市の広報誌（広報なばり）			
のぼり設置	実施中	伐採箇所			
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	高所作業車使用	本	1	103,400	103,400	名張市 奈垣 地内
危険木伐採	クレーン車、高所作業車使用	本	10	297,000	297,000	名張市 富貴ヶ丘5番町 地内
危険木伐採		本	3	124,300	124,300	名張市 桔梗が丘5番町 地内
危険木伐採	クレーン車、高所作業車使用	本	1	235,400	235,400	名張市 桔梗が丘5番町 地内
危険木伐採	クレーン車使用	本	1	149,600	149,600	名張市 緑が丘東 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	2	149,600	149,600	名張市 さつき台1番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	7	240,900	240,900	名張市 すずらん台東3番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	10	99,000	99,000	名張市 すずらん台東3番町 地内
危険木伐採		本	7	297,000	297,000	名張市 さつき台 地内
危険木伐採		本	2	297,000	297,000	名張市 梅が丘北5番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	21	297,000	297,000	名張市 桔梗が丘6番町 地内
危険木伐採		本	7	297,000	297,000	名張市 下比奈知 地内
危険木伐採	クレーン車、高所作業車使用	本	1	297,000	297,000	名張市 平尾 地内
危険木伐採		本	3	115,800	115,800	名張市 夏秋 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	1	132,000	132,000	名張市 桔梗が丘5番町 地内
危険木伐採		本	2	22,000	22,000	名張市 上八町 地内
危険木伐採		本	10	299,200	299,200	名張市 つつじが丘北2番町 地内
		合計			3,453,200	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

伐採前写真



写真2

伐採後写真



写真3

伐採前写真



写真4

伐採後写真



写真5

伐採前写真



写真6

伐採後写真

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	森林公園等環境活用整備事業					
事業費	940,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			940,000	0	0	

1. 事業の目的

市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

- ①東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、公園内の倒木等の整理、除草作業、遊具設置などを行った。
- ②桔梗が丘地内の森林公園：森林環境教育や地域のイベントなどに利用できるよう、ナラ枯れなどによる枯れ木や倒木の整理、遊歩道の整備、植樹などを行い、里山としての保全活動を進めた。
- ③箕曲地内の森林：森林環境教育の一環として、小学生などが箕曲地内の森林内を散策できるよう、遊歩道の整備、草刈、枯れ木の伐採を行った。また憩いの場作りのためのベンチを設置した。
- ④西田原ふるさと公園：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、支障木を伐採し、遊歩道を整備した。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

市内地域づくり組織 (ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会、薦原地域づくり委員会)

【実施個所及び箇所数】

市内4箇所

【事業量】

東山ふれあいの森 倒木等の整理、除草作業、遊具設置、植樹 (延べ作業人数45名)
 桔梗が丘地内の森林公園 枯れ木や倒木の整理、遊歩道の整備、植樹 (約16名のスタッフにて年間21回の保全活動)
 箕曲地内の森林 遊歩道の整備、草刈、枯れ木の伐採、ベンチの設置 (延べ作業人数32名)
 西田原ふるさと公園 倒木等の整理、除草作業 (延べ作業人数50名)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林公園の整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、市民が身近な森林に愛着や親しみを持ち、優しく公園を利用し、こころ豊かな生活が送れるようになる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

住民が自ら事業を実施することで森林が身近に感じられるよう工夫した

【新たな対策・視点及び改善点】

整備した備品を活用して今後も適切に公園管理に努める

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	940,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			940,000	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり300,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
申請があった地区を対象とした					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	地域住民及び公園利用者並びにボランティア参加者 約18,000人			
	期待する波及効果	地域住民からの波及効果が期待される			
【公的関与の必要性】					
森林公園は地域協議会等が管理しているが、管理費用等は協議会負担であり、整備を充実させるためには公的関与が必要となる。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
購入した備品は公園管理にのみ使用し、地域協議会等が適切に管理する					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
のぼり設置	実施中	伐採箇所			
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
ひなち地域ゆめづくり委員会	倒木等の整理、除草作業	式	1.00	100,000	100,000	ブローワー、チップソー等 購入
桔梗が丘自治連合協議会	枯れ木や倒木の整理、遊歩道の整備、植樹	式	1.00	240,000	240,000	刈払い機、チェーンソー、遊具購 入、苗木購入
箕曲地域づくり委員会	遊歩道の整備、草刈、枯れ木の伐採、ベンチの設置	式	1.00	300,000	300,000	苗木、ベンチ等購入
薦原地域づくり委員会	倒木等の整理、除草作業	式	1.00	300,000	300,000	刈払い機、チェーンソー 等購入
			合計		940,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

7の(1). 写真

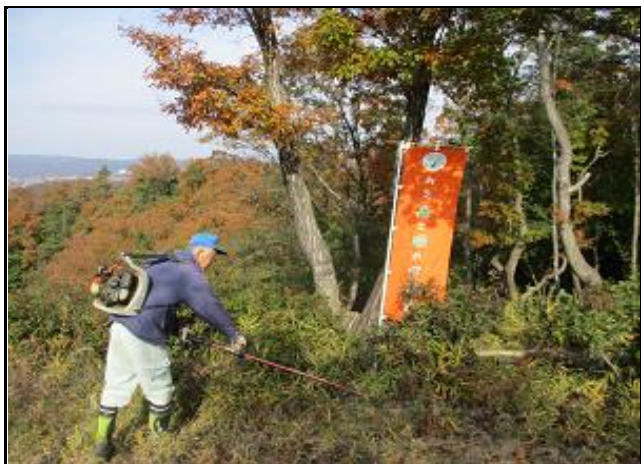


写真1

東山ふれあいの森 (除草作業)



写真2

東山ふれあいの森 (除草作業)



写真3

箕曲地内の森林 (地元小学生によるテーブル、ベンチ作成)



写真4

箕曲地内の森林 (地元小学生によるテーブル、ベンチ作成)



写真5

箕曲地内の森林 (植樹)



写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	未利用間伐材バイオマス利用推進事業					
事業費	503,925 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			503,925	0	0	

1. 事業の目的
<p>森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の健全化を図る。</p> <p>間伐材の搬出困難等で森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>木質バイオマスの利用促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内の F I T に基づく木質バイオマス燃料買取実施場所までの搬出及び運搬に要する経費を助成した。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>事業に参画する林家</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>補助事業実施者：7名 整備が行われた山林：7箇所</p> <p>【事業量】</p> <p>未利用間伐材の搬出 201.57トン</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進される。 ・森林の健全化、未利用残材の処理を推進することにより災害時の林地残材の流失防止に繋がる。 <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>特になし</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>取組を周知するためにパネル展示などを行った。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市		新規・継続の別	継続	
番号	事業名							
3	未利用間伐材バイオマス利用推進事業							
事業費	503,925 円	(財源内訳)	当年度交付金	503,925	市町基金	0	その他	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】								
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】								
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考			
	補助事業	個人	定額補助	2,500円/t				
【委託先及び補助対象者等の選定理由】								
申請があった個人を対象とした								
【主な経費内訳】								
(別紙のとおり)								
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】								
【受益者及び、期待する波及効果】								
	受益者	市民・県民多数						
	期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上						
【公的関与の必要性】								
木材価格が下落した昨今において、木材の搬出に公的関与が必要となる。								
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】								
林家個人が適切に管理する								
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】								
【情報発信の内容】								
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）						
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場						
7. 写真及びその他資料								
別紙のとおり								
8. その他特記事項（受益者の反応等）								

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	----------------	-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	7.44	2,500	18,600	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	0.51	2,500	1,275	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	9.20	2,500	23,000	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	7.38	2,500	18,450	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	1.30	2,500	3,250	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	25.44	2,500	63,600	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	150.30	2,500	375,750	
			合計		503,925	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(1).写真



写真1
事業実施前



写真2
事業実施後



写真3
事業実施中



写真4
土場に搬出された木材



写真5
市場に搬出された木材



写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	人家裏危険木伐採事業					
事業費	2,050,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,050,000	0	0	

1. 事業の目的
人家裏にある危険木を伐採することで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち1本あたり10,000円以内で助成を行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>地域住民 10戸</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>10件</p> <p>【事業量】</p> <p>237本の危険木を伐採</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保される。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>特になし</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>取組を周知するためにパネル展示などを行った。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	人家裏危険木伐採事業				
事業費	2,050,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,050,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	1件 上限 300,000円 1本当たり10,000円以内	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

市民の生命及び安全な暮らしを守るために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

個人が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
回覧板・掲示板	実施前・中	市の広報案内パネルで放映
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		本	10	10,000	100,000	
危険木伐採		本	25	10,000	250,000	
危険木伐採		本	30	10,000	300,000	
危険木伐採		本	30	10,000	300,000	
危険木伐採		本	5	10,000	50,000	
危険木伐採		本	34	8,824	300,000	
危険木伐採		本	48	6,250	300,000	
危険木伐採		本	40	7,500	300,000	
危険木伐採		本	13	10,000	130,000	
危険木伐採		本	2	10,000	20,000	
合計			237		2,050,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7の(1).写真



写真1

事業実施前



写真2

事業実施後



写真3

事業実施前



写真4

事業実施後



写真5

事業実施前



写真6

事業実施後

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	学校林整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

1. 事業の目的																									
<p>これまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める機会を創出する。</p>																									
2. 事業実績概要																									
【事業内容】																									
<p>小学校の荒廃している学校林において、危険木や枯損木の除伐、歩道の整備、木製のテーブル・ベンチの設置などの整備を行った。さらに、整備した学校林において、児童が木育体験として間伐体験を行うことで森林の手入れの重要性等を学習し、森林や緑に対する理解をより深めた。</p>																									
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】																									
学校林整備を行う団体等																									
【実施個所及び箇所数】																									
2 箇所 (小学校林)																									
【事業量】																									
<table border="0"> <tr> <td>薦原小学校林：学校林までのアクセス道整備、山林広場整備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校林面積 1,334㎡</td> <td>400,000円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>すずらん台小学校林：山林広場整備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校林面積 約1ha</td> <td>500,000円</td> <td>計900,000円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						薦原小学校林：学校林までのアクセス道整備、山林広場整備					学校林面積 1,334㎡	400,000円				すずらん台小学校林：山林広場整備					学校林面積 約1ha	500,000円	計900,000円		
薦原小学校林：学校林までのアクセス道整備、山林広場整備																									
学校林面積 1,334㎡	400,000円																								
すずらん台小学校林：山林広場整備																									
学校林面積 約1ha	500,000円	計900,000円																							
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】																									
【事業実施により期待される効果】																									
<p>子ども達が学校生活において森林に親しむことができる環境を整備することで、森林や緑に対する理解を深める機会を創出できる。また、PTAや地域住民の利活用も期待される。</p>																									
【効果を発揮させるための工夫・取組】																									
特になし																									
【新たな対策・視点及び改善点】																									
間伐体験を行うことで森林や緑に対する理解をより深めた。																									

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	学校林整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 500,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	学校林を活用する児童 約350名、教員及びPTA、ボランティアスタッフ 約200名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育の充実及び学校林を活用する児童の安全を確保するために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校と学校林整備を行う団体が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（学校林内）
のぼり設置	実施前・中・後	整備箇所（学校林内）

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

木製遊具設置 (すずらん台)



写真2

遊歩道整備 (すずらん台)



写真3

木製ベンチ設置 (すずらん台)



写真4

学校林入り口 (薦原)



写真5

案内看板 (薦原)



写真6

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
6	森林環境教育推進事業				
事業費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

1. 事業の目的
全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校と共同で森林教育を行う地域協議会等を対象に支援する。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>市内小学校が実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワークなどの体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>学校単位で設立する実行委員会、地域ボランティア等 (桔梗が丘自治連合協議会)</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>1 校 (桔梗が丘小学校)</p> <p>【事業量】</p> <p>1 校 補助事業費 : 100,000 円</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>森林環境教育を受けた子ども達が、森林・自然への理解と関心を深めることができる。活動経費の補助により森林環境教育を実施する機会が増加する。</p> <p>また、本事業を実施するにあたりボランティアスタッフも森林・自然への理解と関心を深める機会となり、地域づくり組織が率先して地域の小学生と交流する場となる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>地域住民への波及効果を期待しボランティアスタッフの動員数を増やした</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>取組を周知するためにパネル展示などを行った。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
6	森林環境教育推進事業				
事業費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 100,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
申請があった団体を対象とした					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	桔梗が丘小学校児童生徒及び教職員約100名、ボランティアスタッフ約60名			
	期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】					
森林環境教育を充実させるために公的関与の必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場			
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（森林公園内）			
のぼり設置	実施前・中・後	整備箇所（森林公園内）			
チラシ等配布	実施前	保護者			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
桔梗が丘自治連合協議会	消耗品費、バス賃借料	式	1.00	100,000	100,000	
		合計			100,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1
開会式



写真2
クイズラリーの様子



写真3
クイズラリーの様子



写真4
クイズラリーの様子



写真5
クイズ



写真6
林業見学(丸太伐採)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
7	桜並木保全管理事業					
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			300,000	0	0	

1. 事業の目的

樹勢が衰え開花状況が悪くなった名張中央公園の桜並木に地域住民らがボランティアとして、専門家(樹木医)の意見を参考に施肥することにより、住民の森林や緑を思う気持ちの醸成や身近な緑に親しむ機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地域住民から子どもを中心に参加者を募り、ボランティア活動によって施肥や枯れ枝の剪定及び薬の塗布を行うことで、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出した。さらに、森の働きや森林の手入れの重要性等について講義を行うことで森林への理解をより深めた。

【実施主体(補助事業の場合は補助事業実施主体)】

名張中央公園で桜並木の保全管理を実施する団体

【実施個所及び箇所数】

1箇所(名張中央公園)

【事業量】

保全活動 300,000円
 内 堆肥 223,000円 対象:全800本
 樹体清掃管理作業 77,000円 対象:特にメンテナンスが必要な樹木 30本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

桜並木の保全管理を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく公園を利用し、市民がこころ豊かな生活が送れるようになる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

名張中央公園で開催される「名張桜まつり」で周知を行うことで身近な森林に親しむためには手入れが必要であることを示し、県民税の意義の周知を図る。

【新たな対策・視点及び改善点】

取組を周知するためにパネル展示などを行った。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
7	桜並木保全管理事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 300,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
申請があった団体を対象とした					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	「名張桜まつり」の参加者 30,000人（見込み）			
	期待する波及効果	「名張桜まつり」の参加者への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】					
桜並木の保全及び市民の森林を思う気持ちの醸成のために公的関与の必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場			
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（名張中央公園内）			
のぼり設置	実施前・中・後	整備箇所（名張中央森林公園内）			
チラシ等配布	実施前	地域住民へのボランティア参加募集			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	施肥、防腐処理等	式	1.00	300,000	300,000	
合計					300,000	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

7 の (1) . 写真



写真1

苔取りの様子



写真2

防腐剤発布の様子



写真3

施肥の様子



写真4



写真5



写真6

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
8	無形民俗文化財保全事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的
<p>770年以上続く、「伊賀一ノ井松明調進行事」に用いられる松明木の原料を調達するヒノキ林を育成することで、「無形民俗文化財」に指定される当行事を継承していく。また、ヒノキの植樹を地域住民によるボランティアとして行うことで、地域の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、身近な自然に親しむ機会を創出する。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>松明木の原料となるヒノキ材を調達する森林を整備するため、地域住民の参加による植樹を実施する。令和3年度は、植栽準備のための不要木伐採を実施した。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>市内地域づくり組織</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>1地区 (名張市赤目町一ノ井)</p> <p>【事業量】</p> <p>300,000円×1地区 (赤目町一ノ井) = 300,000円 森林面積: 約 0.2ha 約70本</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>地元で古くから引き継がれる伝統行事を住民主体の地域づくり活動の一環として保全していくことで、当行事を深く知るきっかけになる。また、当行事に欠かせないヒノキ林の整備に関心が生まれ、身近な森林を大切にする気持ちを醸成することができる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>植樹祭及び松明調進行事で森林の保全管理の必要性について説明を行う。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>令和4年度に実施する植樹に向けて支障となる立木を全て伐採することができた。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
8	無形民俗文化財保全事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 300,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
申請があった団体を対象とした					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	伊賀一ノ井松明講、春を呼ぶ会 等関係団体 約30名 地元住民による植樹への参加者 約100名			
	期待する波及効果	「伊賀一ノ井松明調進行事」の参加者への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】					
無形民俗文化財の保全及び継承のために公的関与の必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	無形民俗文化財保全事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

伐採前



写真2

伐採後

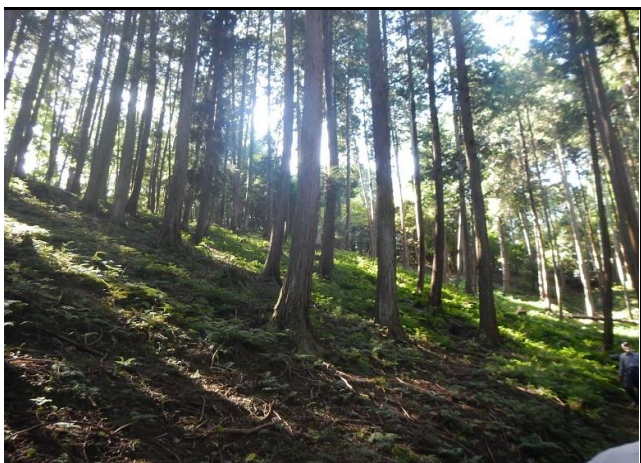


写真3

伐採前



写真4

伐採後



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
9	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事業費	3,711,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			927,850	0	2,783,550

1. 事業の目的
電力会社等と市町及び県が連携して、台風等における倒木被害からライフラインを守るため、危険木と想定される立木等の事前伐採を行い、安心安全な市民生活を確保する。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>各地区の要望等を把握し、電力会社等及び三重県と連携して、台風などの倒木被害によりライフラインを寸断する恐れのある危険木の事前（計画）伐採を実施した。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】</p> <p>名張市</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>2箇所（名張市 夏秋、夏見 地内）</p> <p>【事業量】</p> <p>夏秋：0.081ha、49本伐採 夏見：0.09ha、151本伐採</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>電力会社と行政が連携して事前伐採を行うことにより、倒木被害の予防・低減に貢献することができる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>台風等における倒木被害からライフラインを守る事業であることをパネル展示等で告知することにより、市民に対して県民税活用の意義を理解してもらう。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>森林所有者調査において電力会社からの協力を得られるように交渉を続けていく。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
9	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事業費	3,711,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			927,850	0	2,783,550
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	委託事業	林業事業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
入札（2者）					
【主な経費内訳】					
（別紙のとおり）					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	森林所有者、電力の供給領域で生活する市民・県民			
	期待する波及効果	道路を通る住民への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】					
住民の生命に関わるライフラインの保全のために公的関与の必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場			
のぼり設置	実施中	整備箇所			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
森林資源調査 (夏秋)	樹種、胸高直径、本数	式	1.00	80,300	80,300	
森林資源調査 (夏見)	樹種、胸高直径、本数	式	1.00	80,300	80,300	
危険木伐採 (夏秋)	クレーン車、高所作業車使用	式	1.00	1,150,800	1,150,800	
危険木伐採 (夏見)	クレーン車、高所作業車使用	式	1.00	2,400,000	2,400,000	
合計					3,711,400	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

7の(1).写真



写真1
伐採前(夏秋)

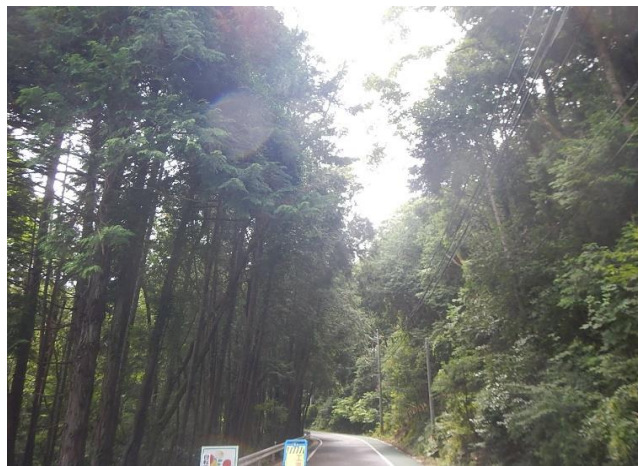


写真2
伐採前(夏見)



写真3
伐採中(夏秋)



写真4
伐採中(夏見)



写真5
伐採後(夏秋)



写真6
伐採後(夏見)

伊賀市

令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(基本枠、加算枠)事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報(平成30年度版三重県市町要覧による)

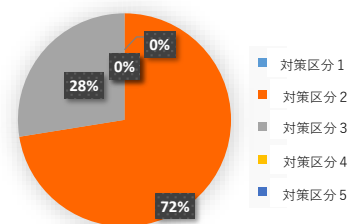
市町名	市町名	三重県
人口(人)	86,306	1,782,190
年少人口割合(%) * 1	11.2%	12.4%
森林面積(ha)	33,952.00	372,352.55
民有林面積(ha) * 2	32,599.00	348,833.49
森林率(%)	61.0%	64.0%
都市公園面積(m ² /人口) * 3	12.1	10.1

* 1: 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2: 国有林以外の森林(個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。)

* 3: 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(基本枠・加算枠)事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円) (当年度交付金額+基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	3	親子ではじめる木育推進事業	1,551,160	1,551,160			1,551,160			
2	2	みんなの里山整備活動推進事業	6,569,000	6,569,000		6,569,000				
3	3	伊賀の森っこ育成推進事業	2,080,288	2,080,288			2,080,288			
4	3	地域の森と緑のつながり支援事業	250,000	250,000			250,000			
5	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	5,486,580	5,486,580		5,486,580				
6	3	森のやすらぎ空間整備事業(伊賀の木活用人材育成)	699,994	699,994			699,994			
7	-	みえ森と緑の県民税市町交付金	2,661,978	2,661,978						2,661,978
計			19,299,000	19,299,000	0	12,055,580	4,581,442	0	0	2,661,978

3. 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(連携枠)(防災枠)事業実績

事業区分	事業量(ha・m)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	158箇所、44.65ha	16,808,000	16,808,000	現地調査及び間伐実施
森林再生力強化対策事業	-	-	-	-
災害からライフラインを守る事前伐採事業	-	-	-	-

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	<p>伊賀市の総面積55,817haの内、森林面積は33,952haで総面積の約60%を占めている。古くから林業の盛んな大山田、青山地域の人工林率は高いものの、市全体の人工林率は56.8%と県平均人工林率62.5%を下回っており、零細で小規模な所有者が多くなっている。</p> <p>森林は、木材等の林産物の供給といった経済的機能に加えて、山地災害の防止や水源かん養などの公益的機能を有している。伊賀地域は、布引山系、鈴鹿山系、大和高原に囲まれ、地域の景観を形成するほか、大阪湾に流れる淀川の源流域であり、近畿圏域の水源地である。このような特徴から、伊賀地域の森林環境の保全・維持は、伊賀地域のみならず、近畿圏域の自然環境の保全、自然共生社会の形成に寄与するという意義がある。そこで、当交付金事業により、伊賀地域の林業振興及び森林環境の保全・維持を進めることで、災害に強い森林づくりと県民全体で森林を支える社会づくりを実現する。</p>
事業実施により期待される効果	<p>みんなの里山整備活動推進事業では、事業を通して地域の山林として位置づけることで、維持管理する方向性が地区等で広がっている。未利用間伐材バイオマス利用推進事業においても、災害に強い森林づくりのみならず、森林所有者が間伐作業へ携わる機会の増大に貢献している。木育関連事業で実施したアンケートでは、木のぬくもりの良さについて回答する意見も見受けられ、森林の持つ重要性についての周知が進んでいる。</p>
情報発信への取組	<p>みえ森と緑の県民税の認知度をより高めるため、市内で放映されるCATV(伊賀上野ケーブルテレビ)を活用して、みえ森と緑の県民税の目的や必要性を周知した。伊賀市では、木育から森林整備まで幅広く事業展開している市町交付金事業の全事業について紹介し、中でも、「森のやすらぎ空間整備事業(伊賀の木活用人材育成)」の紹介では、生徒がプレゼンテーションしている様子の写真や完成品の写真、配置箇所等を説明し、県民税を身近に感じられる内容で周知した。また、昨年度に続き今年度も新型コロナウイルス感染症対策の観点から、市内の農産物等イベントへの木育ブース出展による情報発信活動は中止となったが、みえ森と緑の県民税に関するアンケート等を実施したほか、伊賀市役所庁舎内にて、木使いの重要性を伝えるパネル展示、みえ森と緑の県民税に関するパネル展示を三重県伊賀農林事務所と共同で実施し、森林の重要性とともに県民税の周知に努めた。</p>

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	③ 私有林整備	25,630,000	25,630,000
2	⑦ その他 (森林整備)	14,129,990	13,517,782
3	① 意向調査の準備作業	10,613,970	10,613,970
4	⑰ 基金積立 (森林整備等)	6,617,248	6,617,248
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	56,991,208	56,379,000

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	親子ではじめる木育推進事業					
事業費	1,551,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			11,551,160	0	0	

1. 事業の目的						
<p>親子での「木育」推進。</p> <p>古くから「森」や「木」が身近にあった伊賀市では、健やかな子どもの成長と森林の持続的整備に必要な適切な木材利用の推進を図り、森をささえる社会づくりにより地域そのものの価値を高める。</p>						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期からの「木育」と「食育」を関連させた事業として、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームをプレゼントする。 ・ 1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせてプレゼントする。 						
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】						
伊賀市						
【実施個所及び箇所数】						
市内全域						
【事業量】						
フォトフレーム	出生時	540個				
木のスプーン	1歳半検診時	200本				
木の子ども用お箸	3歳児検診時	200膳				
レターパック	48通					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
<p>木に触れることで、木の薫りとぬくもりを感じることができるとともに、リーフレットを配布することにより親子で木に関心を持つ機会を作る。また、社会科の授業と併せて森に関する人づくりを行うことができる。</p>						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
<p>配布時に、伊賀産材を使用していることなど直接伝えることで、木や森林に関心を持つ機会を創出した。</p>						
【新たな対策・視点及び改善点】						
<p>1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせて配布していたが、子どもがスプーンを噛んで飲み込む事象が発生したため、令和4年度は配布対象年齢を上げるにより、安全に使用して頂けるように改善する。</p>						

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	親子ではじめる木育推進事業				
事業費	1,551,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			11,551,160	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
物品購入	個人	補助事業ではない			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
一般競争入札により発注、購入した。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	新生児540人、1歳半児200人、3歳児200人				
期待する波及効果	受益者及び家族が木材に愛着を感じるようになり、木製品を好むようになる、森林環境に関心を持つ。				
【公的関与の必要性】					
多くの市民（乳幼児）に配布物による木のぬくもりを感じてもらうため。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施後	伊賀市ホームページ内にて事業の目的等の内容を公開した。			
チラシ等配布	実施中	フォトフレーム、スプーン、子ども用お箸に事業の目的等を記載したチラシを添付			
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。			
アンケート実施	実施中	親に対する県民税を活用した旨のPRをこめたアンケートを実施した。			
パネル展示	実施後	県と協同で市庁舎イベントブースで県民税PRパネル展示を行った。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	親子ではじめる木育推進事業
-----	---------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
フォトフレーム	出生時	個	540.00	1,870	1,009,800	
木のスプーン	1歳半検診時	本	200.00	1,694	338,800	
木の子ども用箸	3歳児検診時	膳	200.00	924	184,800	
郵送用レターパック		通	48.00	370	17,760	
				合計	1,551,160	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	1. 親子ではじめる木育推進事業
-----	------------------

7の(1). 写真



写真1

箸及び配布チラシ



写真2

スプーン及び配布チラシ



写真3

フォトフレーム(表)



写真4

フォトフレーム(裏)



写真5

包装状態の箸及びスプーン



写真6

スプーンのイメージ

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	親子ではじめる木育推進事業
-----	---------------

7の(2). その他資料

「森からのプレゼント」

伊賀の森林は古くから人との関わりの中で、生活に豊かな恵みをもたらしてきました。

森の人とのたゆまぬ営みを子どもに伝えるきっかけとして、また木のぬくもりを感じ、豊かな暮らしを送っていただけるよう、「みえ森と緑の県民税」を財源にして、伊賀のヒノキで作ったフォトフレームをお送りします。

伊賀市長



かおり。
てざわり。
ぬくもり。

伝えつづけたい、日本の木のやさしさ。

住って、使って、継いで、育てる、未来への「木づかい」

木づかい.com 林野庁 <http://www.rikyo.go.jp>




- 木に「触れ、感じる」ことを目的とした、伊賀産のヒノキで作ったスプーンです
- 塗料・防腐剤を使用していないので、本来の木のおいや手触りを感じていただけます
- 塗装された木製スプーンに比べ、強度が劣り破損しやすい作りとなっていますので、
保護者の方の見守りの中でご使用ください。
- 使用する前に水で湿らせたり、油を薄く塗ると汚れがつきにくくなります

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	みんなの里山整備活動推進事業					
事業費	6,569,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			6,569,000	0	0	

1. 事業の目的
地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生するために自治会等が行う活動に対して支援することにより、身近な里山環境を豊かにすること及び地域住民による持続的な森を支える社会づくりの形成を目的とする。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金 (上限250,000円/団体) として交付する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>地域住民が組織する自治会等の団体</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>30箇所</p> <p>【事業量】</p> <p>支援地域団体数：30団体 整備面積：17.0ha</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できる</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理及びこれらの関連施設の管理を年間2回以上行うことを事業要件としていること。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>当事業の趣旨は、地域住民が当事業に積極的に参加することであることを再度周知徹底し、より良い制度運用を行なっていく。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	みんなの里山整備活動推進事業				
事業費	6,569,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,569,000	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
補助事業	自治会等	定額補助	25万円/団体		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	受益者：市内住民 活動団体数：30団体 活動参加人数：延べ1,225人				
期待する波及効果	地域の人々が身近な森林の整備を行うことで、幅広い人に森林への興味関心を育むことが出来る。				
【公的関与の必要性】					
地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。 持続管理する必要性について指導している。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。			
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。			
パネル展示	実施後	市民が行き交う場所に設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。			
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。			
のぼり設置	実施中	必要に応じて、事業箇所に県民税のぼりを設置し、周辺住民へのPRを図った。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。					

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	----------------	-----	-----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業補助金	団体	30.00	上限250,000円	6,569,000	
事業費				6,569,000	

作業内容	名称	人数	整備面積	活動内容	補助金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業一覧	法花区	83	0.70	里山整備、支障枝除去等	250,000	
	中矢区	81	2.40	里山整備、支障木除去等	250,000	
	鍛冶屋自治会	29	0.05	支障木除去等	176,000	
	坂下区	75	1.60	支障木除去等	250,000	
	妙楽地区	90	—	雑草木、倒木除去	248,000	
	勝地区	100	2.00	支障木、雑草木・倒木処理	249,000	
	広瀬区	15	2.00	支障木処理	250,000	
	小杉区	105	0.80	支障木、雑草等除去	148,000	
	瀧区	15	0.10	支障木処理等	250,000	
	霧生区	66	0.50	雑草処理	205,000	
	諸木区	22	0.50	雑木・竹の伐採	232,000	
	前川区	60	0.80	植樹(みつまた)	249,000	
	阿山ハイ自治会	56	0.03	雑木の伐採等	250,000	
	種生区	24	0.43	雑木の伐採、枝払い等	250,000	
	真泥区	32	0.40	雑木伐採等	119,000	
	四十九町自治会	5	0.01	支障木伐採等	250,000	
	奥馬野区	22	0.10	支障木伐採及び清掃作業	223,000	
	下阿波区	19	0.05	支障木伐採及び撤去	108,000	
	上津地区住民自治協議会	13	0.03	倒木等除去	122,000	
	猪田大東区	20	0.50	草刈り、倒木撤去など	40,000	
	大字御代区	60	0.60	竹林伐採ほか	250,000	
	大内区	17	1.00	危険木及び支障木撤去ほか	250,000	
	青山羽根区	27	0.05	危険木撤去	200,000	
	桐ヶ丘5丁目自治会	10	—	危険木撤去	250,000	
	伊勢路区	25	0.50	危険木撤去	250,000	
	桐ヶ丘7丁目自治会	12	—	危険木撤去	250,000	
	北山区	16	0.40	支障木撤去	250,000	
	佐那具町自治会	18	1.00	支障木撤去	250,000	
	西山自治会	72	0.40	危険木、支障木撤去	250,000	
	大江区	36	0.02	危険木、支障木撤去	250,000	
計		1,225	16.97		6,569,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事例① 坂下区	危険木伐採工事費	1	式	—	170,500	危険作業は業者委託可
	里山整備機械消耗品購入費	1	式	—	95,920	チェーンソー、草刈り、鎌、鋸、消耗品費
	燃料費	1	式	—	5,389	ガソリン、混合油
計					271,809	内、補助金250,000

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事例② 御代区	機械レンタル料	1	式	—	125,000	竹伐採機レンタル料金
	里山整備機械消耗品購入費	1	式	—	125,411	竹用チップソー等
計					250,411	内、補助金250,000

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

7の(1).写真



写真1

里山周辺環境整備



写真2

間伐整備



写真3

伐採木の搬出



写真4

里山周辺環境整備



写真5

支障木の伐採



写真6

支障木の伐採

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

7 の (2) . その他資料


[▶ サイトマップ](#) [▶ 組織から探す](#) [English](#) [中文](#) [Portugués](#) [Español](#)

Google 提供

検索

文字サイズ

標準

拡大

読み上げ

読み上げ設定

やさしいほんご

トップ

防災・暮らし

健康・福祉

教育・文化
スポーツ

観光情報

市政情報

現在位置 [トップ](#) [▶ 市政情報](#) [▶ 市の計画・取り組み](#) [▶ 各種施策](#)

あしあと

地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業

[公開日：2022年5月20日] [更新日：2022年5月20日] ID:6648

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[f シェア](#)[T ツイート](#)[LINEで送る](#)

地域主体の暮らしに身近な森林づくりや森を育む人づくりを応援します。伊賀市では「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」として、主に住民自治協議会、自治会（区）を対象に以下の事業の募集を行っています。

令和4年度 みんなの里山整備活動推進事業補助金

- 実施主体
自治会（区）等
- 実施期間
交付決定日から令和5年2月末日
- 事業内容
自治会（区）等の地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理およびこれらの関連施設の管理を2回以上行う活動
- 事業目的
暮らしに身近な里山を地域住民みんなの里山として管理し、次世代に受継ぎ、持続的な里山の保全管理を推進する。

※詳しくはみんなの里山整備活動事業推進事業補助金の概要をご確認ください。事業の実施には、各要件がありますので、事前に農林振興課計画係までお問い合わせください。

添付ファイル

[w 令和4年度 みんなの里山整備活動推進事業概要 \(ファイル名：minsatogaiyou.docx サイズ：2.52MB\) \(ワード形式、2.52MB\)](#)

[w 様式集 \(ファイル名：minsatoyoushiki.docx サイズ：28.48KB\) \(ワード形式、28.48KB\)](#)

[w 様式集【記入例】 \(ファイル名：minsatokinyurei.docx サイズ：74.22KB\) \(ワード形式、74.50KB\)](#)

お問い合わせ

伊賀市役所産業振興部農林振興課

電話：0595-22-9712

ファックス：0595-22-9715

電話番号のかけ間違いにご注意ください！

[お問い合わせフォーム](#)

この記事と同じ分類の記事

- [▶ 令和4年度市政運営会議](#)
- [▶ 令和3年度市政運営会議](#)
- [▶ 令和2年度市政運営会議](#)
- [▶ 伊賀市と甲賀市は生活行動圏を共有しています](#)
- [▶ 平成31年度市政運営会議](#)
- [▶ 平成30年度市政運営会議](#)
- [▶ 平成29年度市政運営会議](#)
- [▶ 平成25年度会議要録・会議資料](#)
- [▶ 平成28年度会議要録・会議資料](#)

※資料は令和4年度募集についてのホームページ内容です

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	伊賀の森っこ育成推進事業				
事業費	2,080,288 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,080,288	0	0

1. 事業の目的

森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場においても学習できるようにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験 (竹材等も含む)、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木と関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等

【実施個所及び箇所数】

14箇所 (学校)

【事業量】

事業量：市内小中学校 14校41学級で実施

事業費：2,080,288円 (補助金額)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森林のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業開始から申請数が増え、継続して要望もあることから、今後も継続して事業を実施していく。

【新たな対策・視点及び改善点】

小学校と中学校で、年齢・学年に応じた体験を行うことで、子どもたちにより知識・理解を深めることが出来た。

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法 (委託 (請負) 先、補助対象者及びその選定理由)】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	最上級学年の学級数×10万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	伊賀の森っこ育成推進事業				
事業費	2,080,288 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,080,288	0	0

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加生徒自動総数984人
期待する波及効果	生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。

【公的関与の必要性】

市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業を実施した小中学校のHPで学校の保護者や生徒に対し、事業実施内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRを行った。
チラシ等配布	実施前	学校担当者に対し、校長会の際に本事業の内容について説明した。
学校だより等掲載	実施後	事業を実施した小中学校の学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀の森っこ育成推進事業補助金交付	学級			2,080,288	14団体
事業費				2,080,288	

作業内容	名称	学級数	参加人数	単価	金額	備考
学校教育における 森林環境教育・木 工体験・林業体験	崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	136.00		340,000	
	西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	7	76.00		100,000	
	島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	67.00		100,000	
	府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	30.00		100,000	
	成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	18.00		100,000	
	青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	54.00		117,704	
	上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	203.00		372,884	
	壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	56.00		100,000	
	神戸小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	18.00		94,600	
	青山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	48.00		163,350	
	阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	55.00		159,300	
	三訪小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	29.00		100,000	
	上野東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	166.00		200,000	
	久米小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	28.00		32,450	
		計	41	984		2,080,288

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

木工体験



写真2

木工体験



写真3

のこぎり体験



写真4

森林環境教育



写真5

しいたけ菌打ち体験



写真6

森林環境教育

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

	崇広中だより 【カラー版を、ホームページに掲載しています】	NO.11 発行 崇広中学校長	2022.3.25 発行 崇広中学校長
---	---	--------------------	------------------------

卒業おめでとうございます！

3月11日(金)、第74回の卒業式を挙し、159名が巣立ちました。新型コロナウイルスの感染を防ぐため、本年も昨年同様に卒業生、保護者、教職員のみが式場に入っの卒業式となりました。しかし、本年は加えて、1・2年生は教室でライブ配信を見る形で参加しました。また、在校生代表も式場に入り、「卒業生に贈る言葉」を伝えることができました。最後には、卒業生からのメッセージをスクリーンに映し出しました。

式の後、各教室で担任が最後の授業を行いました。この最後の授業の間、保護者の皆様には、「3年生の思い出のビデオ」を鑑賞していただきました。

最後の見送りも、1・2年生も参加して行いました。

**1年生人権学習！**

3月15日(火)に、「社会福祉法人 維雅幸育会 ふっくりあ」の藤岡絵都子さんから話を聞かさせていただきました。お話の中で、「障がいのある人には、特別な支援が必要だけど、特別な人ではない」ということが印象に残ったという生徒が多かったです。また、多様な生活があることを知り、みんなが幸せを感じられる社会にするために、それぞれ自分ができることをこれからも考えていきたいと思ひます。

**「みえ森と緑の県民税」を活用した「伊賀の森っこ育成推進事業」による木工製作**

崇広中学校の1年生技術科で、「みえ森と緑の県民税」を活用した「伊賀の森っこ育成推進事業」による木工製作を行っています。マルチラックを製作し、木材の特徴や加工方法を習得しました。また、保水や河川に過剰な土砂を堆積させない等の治水機能、二酸化炭素を酸素に変える地球温暖化を防ぐ機能、木材を生産する機能、里山が動物や人々の暮らしを豊かにする面等、森林が人々の生活を支えている事について学習するとともに、良質な木材を生産するための間伐の必要性についても学習しました。



第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	地域の森と緑のつながり支援事業				
事業費	250,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			250,000	0	0

1. 事業の目的

地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなっているため、地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援することで、地域住民や子どもたちが共に森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

補助事業) 住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。
※今年度は、新型コロナウイルス感染症対策等の影響により補助申請が無く、実績なし。

研究委託等)

三重大と連携して、地域の林業振興につながる研究を行う。

研究内容)

地域の森林及び地域林業の振興を目的として、みえ森と緑の県民税伊賀市事業実施後の評価及び今後の取組の提言

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

補助事業：住民自治協議会等

研究委託等：三重大

【実施個所及び箇所数】

補助事業：住民自治協議会等

研究委託等：伊賀市内

【事業量】

共同研究委託 1 件

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

補助事業：なし (新型コロナウイルス感染症対策により、補助事業申請無し)

研究委託：みえ森と緑の県民税伊賀市事業の実施後の評価及び今後の取組の提言により、令和 5 年度以降の事業検討に活かすことが出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

補助事業：実績無し

研究委託：平成 29 年度から三重大生物資源学研究所坂本教授に研究委託を行っており、伊賀市の林業施策について継続して関わってもらい、地域の実情を把握した上で施策への提案をいただいている

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	地域の森と緑のつながり支援事業				
事業費	250,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			250,000	0	0

【新たな対策・視点及び改善点】

補助事業：コロナ禍によるものもあるが、地域からの申請が減少しているため、事業を活用していただきやすいように啓発を丁寧に行う。

研究委託：林業施策に係る検討が多岐にわたるため、次年度以降は森林環境譲与税を財源として実施する。

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	定額補助	研究委託25万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

研究委託：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地域住民
期待する波及効果	森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる

【公的関与の必要性】

研究委託：伊賀市全体の森林林業の現状把握及び地域毎の森林林業再生に寄与する研究であり、公益性が認められる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外利用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRを行った。
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	地域の森と緑のつながり支援事業					
事業費	250,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			250,000	0	0	
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						
補助事業の申請が無かったため、受益者の反応等が確認出来ていない。						

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	地域の森と緑のつながり支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
研究業務委託			250,000	250,000	
合計				250,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7の(1). 写真

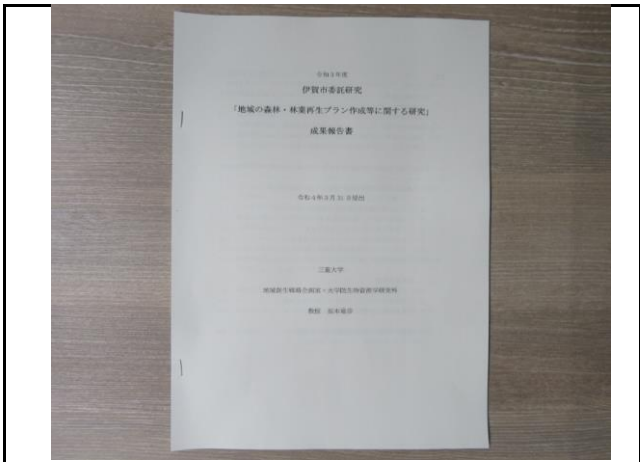


写真1
作成した報告書

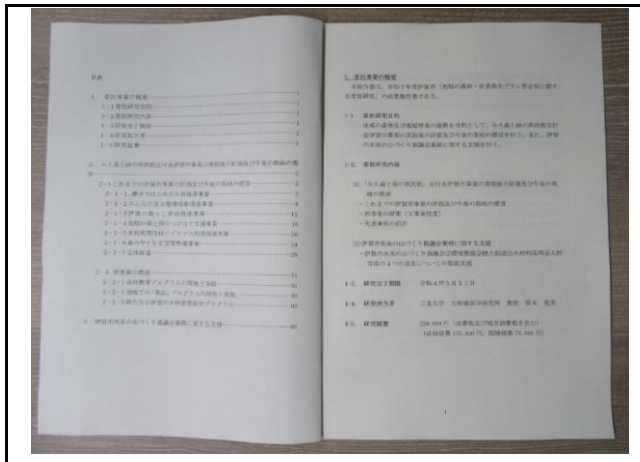


写真2
作成した報告書



写真3

写真3



写真4

写真4



写真5

写真5



写真6

写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----



[サイトマップ](#)
[組織から探す](#)
[English](#)
[中文](#)
[Português](#)
[Español](#)

Google 提供

検索

文字サイズ

標準

拡大

読み上げ

読み上げ設定

やさしいほんご

トップ

防災・暮らし

健康・福祉

教育・文化
スポーツ

観光情報

市政情報

現在位置 [トップ](#) [市政情報](#) [市の計画・取り組み](#) [各種施策](#)

あしあと

地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業

[公開日: 2022年5月20日] [更新日: 2022年5月20日] ID:6648

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

[シェア](#)

[Twitter](#)

[LINEで送る](#)

地域主体の暮らしに身近な森林づくりや森を育む人づくりを応援します。伊賀市では「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」として、主に住民自治協議会、自治会（区）を対象に以下の事業の募集を行っています。

令和4年度 地域の森と緑のつながり支援事業補助金

- 実施主体
住民自治協議会
- 実施期間
交付決定日から令和5年2月末日
- 事業内容
住民自治協議会が主催する森林環境に関するイベントおよび学習活動
- 事業目的
子どもたちが地域住民とともに、森林・林業への理解とそのつながりを深める。

※詳しくは、下記の「地域の森と緑のつながり支援事業補助金の概要」をご確認ください。事業の実施には、各要件がありますので、事前に農林振興課計画係までお問い合わせください。

添付ファイル

- [令和4年度地域の森と緑のつながり支援事業概要 \(ファイル名: chimorigaiyou.docx サイズ: 46.47KB\) \(ワード形式、46.15KB\)](#)
- [様式集 \(ファイル名: chimoriyoushiki.docx サイズ: 26.07KB\) \(ワード形式、26.07KB\)](#)
- [様式集【記入例】 \(ファイル名: chimorikinyurei.docx サイズ: 63.58KB\) \(ワード形式、63.65KB\)](#)

お問い合わせ

- [▶ 平成26年度会議要録・会議資料](#)
- [▶ 伊賀市庁議\(総合政策会議、市政運営会議\)について](#)
- [▶ 平成27年度会議要録・会議資料](#)
- [▶ 子ども・子育て支援新制度について](#)
- [▶ 上野市駅前地区市街地再開発事業](#)
- [▶ 再開発Q&A](#)
- [▶ 地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業](#)
- [▶ 認定農業者になるために](#)
- [▶ 伊賀市農業再生協議会について](#)
- [▶ 人・農地プランについて](#)
- [▶ 伊賀市森林整備計画](#)
- [▶ 環境保全型農業直接支払交付金について](#)

※ホームページは令和4年度事業募集のものです

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
5	未利用間伐材バイオマス利用推進事業					
事業費	5,486,580 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			5,486,580	0	0	

1. 事業の目的

森林所有者等による未利用間伐材の搬出を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り森林整備の促進につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

発電用チップに用いる間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

補助事業；森林所有者等

【実施個所及び箇所数】

補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。

【事業量】

補助事業：未利用間伐材搬出 1,829 t (前年：2,333t) 搬出件数 延べ35件 5,486,580円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

土砂災害等の被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じてもらうことにより、森林への意識が高まった。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

令和3年度に、当事業を利用している森林所有者の要望を受け、林地残材の搬出に係る実態調査を行い検討した結果、補助単価を2,500円/tから3,000円/tに増額した。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業を活用しやすいように、申請書及び添付資料を簡略化を検討する。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事業費	5,486,580 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,486,580	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	補助事業	登録者	定額補助	3,000円/t	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
該当なし					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	森林所有者等			
	期待する波及効果	森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる			
【公的関与の必要性】					
市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
森林が適正に管理されるよう指導している。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。			
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。			
パネル展示	実施後	市民が行き交う場所に設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。			
広報誌掲載	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。			
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。			
のぼり設置	実施中	バイオマス材搬入場所に設置し、県民税が財源であることをPRした。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
森林所有者がバイオマス材として搬出することに欠かせない補助金であるとの声をいただいている。					

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	----------------	-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金交付(未利用間伐材バイオマス搬出量)	t	1828.86	3,000	5,486,580	
		合計		5,486,580	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(1).写真



写真1

間伐された森林の様子



写真2

間伐材搬出のようす



写真3

間伐材搬出のようす



写真4

間伐材搬出のようす



写真5

間伐された森林の様子



写真6

間伐材搬出のようす

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(2).その他資料

伊賀市 Iga City

Google 検索

トップ 防災・暮らし 健康・福祉 教育・文化・スポーツ 観光情報 市政情報

未利用間伐材を搬出して、森林整備を進めましょう。

【公開日：2017年6月9日】 【更新日：2021年6月17日】 ID:4578

未利用間伐材を搬出して森林整備を進めましょう。

森林管理を進めるため、未利用間伐材の収集運搬に対し補助金を交付します。

この事業は、**みえ森と緑の県民税を財源とした事業**です。



未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について

木材価格の低迷により用材とせず森林内に留置されている間伐材（以下「未利用間伐材」という。）を搬出することにより、自然災害によって林内に放置されている間伐材が流出することによる下流域に対する被害を防止し、森林所有者等による木質バイオマス資源としての有効利用を推進するため、未利用間伐材の収集運搬に対し補助金を交付します。

1.補助対象者

発電利用に供する木質バイオマスの証明にかかる自主行動規範に基づき搬出する森林所有者等

2.対象森林

伊賀市内の地域森林計画対象民有林

3.対象となる間伐材

市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業所及び木材流通拠点に搬出された間伐材由来の木質バイオマス証明材

3.対象となる間伐材

市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業所及び木材流通拠点に搬出された間伐材由来の木質バイオマス証明材

4.対象となる期間

未利用間伐材の搬出期間と申請期限		
募集期	搬出期間	申請期限
令和3年度第1期	令和3年4月1日から 令和3年6月末日まで	令和3年7月9日
令和3年度第2期	令和3年4月1日から 令和3年9月末日まで	令和3年10月9日
令和3年度第3期	令和3年7月1日から 令和3年12月末日まで	令和4年1月14日
令和3年度第4期	令和3年10月1日から 令和4年9月末日まで	令和4年3月4日

※3月の搬出は対象外となります。

5.補助金額

市内の認定事業者へ搬出した未利用間伐材**1トン当たり3,000円**

※令和3年度から500円増額しました。

6.申請方法 様式集

1.登録

木質バイオマス証明材取扱者の登録（出荷者登録）・（登録申請、自主行動規範作成、分別管理）※3年間有効

2.間伐・搬出

市に（伐採及び伐採後の造林届）を提出し、間伐作業を実施、搬出状況の写真を撮影、発電用チップに係る間伐材等由来の木質バイオマス証明を添えて未利用間伐材買取事業者へ搬出し、計量を受ける。

3.交付申請

〔未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金交付申請書・実績報告書〕を市に提出（7月9日、10月8日、1月14日、3月4日）

記入方法で不明点等がありましたら、農林振興課 0595-22-9712 まで、ご連絡お願いします。

未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金様式関連

申請の手引き(ファイル名: R3biomasskebiki.pdf サイズ: 452.51KB)

様式集(ファイル名: R3yushikishu.docx サイズ: 109.06KB)

お問い合わせ

伊賀市産産業振興部農林振興課
電話: 0595-22-9712
ファックス: 0595-22-9715
電話番号のかけ間違いにて注意ください！
お問い合わせフォーム

この記事と同じ分類の記事

- 地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業
- 林野庁「森林の役割などを学ぶ小学生向けコンテンツ「ふんにドリル 森とくらし」
- 森林環境権と税の使途公表について
- 「緑の基金」にご協力をお願いします。
- 伊賀市未来の山づくり協議会の会費を募集します
- 木製の授乳室をぜひご利用ください
- 〔林業〕伊賀産材ブランド化事業補助金について
- 木製の授乳室をぜひご利用ください
- 〔林業〕伊賀産材ブランド化事業補助金について
- 林業退職金共済制度について
- 林業労働災害に係る注意喚起について
- 伊賀市森林整備計画
- 水源地域の森林整備
- 未利用間伐材を搬出して、森林整備を進めましょう。
- 森林計画図の閲覧
- 公共建築物における木材利用方針を定めました。
- 森林の伐採等の届出について
- 森林の土地を取得したとき

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
6	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)				
事業費	699,994 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			699,994	0	0

1. 事業の目的
<p>市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。</p> <p>市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>伊賀鉄道駅構内に設置する木製ベンチを市内の間伐材等を利用し、事業実施主体が高校生と共同で開発する。また、材木の活用ノウハウを知るため、製材所見学及び木工技術の研修を実施する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>事業実施主体：伊賀線活性化協議会 (木製品開発・制作については白鳳高校等生徒主体)</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>市民や高校生が利用する伊賀鉄道茅町駅の待合室に、学生等が開発設計・制作した木製ベンチを設置。(1箇所)</p> <p>【事業量】</p> <p>1校 (伊賀白鳳高等学校) (開発、材料、道具、広報) 699,994円 材積約0.1m³</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>木工や建築を志す高校生が地域団体と共同で木製ベンチを開発・制作することで、制作に関わった生徒や木製ベンチを利用する学生等が伊賀線に対し愛着を持つことが期待出来る。本事業をマスコミに取り上げてもらうことで、多数の人が伊賀鉄道伊賀線に関心を持ってもらうことが期待出来る。</p> <p>地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えることが期待出来る。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>これまで続けてきて地元団体からの要望も高く、また高校生の木製品の製作を通して木や森林に関心を持つ良い機会となるため、今後も継続して実施する。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>今後も地元団体や高校等と連携しながら、伊賀産材の活用及び人材育成に努める。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事業費	699,994 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			699,994	0	0
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	補助事業	活動団体	10/10以内	上限70万円/ 1か所あたり	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
補助事業による選定のため、該当なし					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	茅町駅利用者数 1日あたり乗降車人数482人（令和3年11月9日調査）			
	期待する波及効果	木製ベンチを利用する学生等が伊賀線に対し愛着を持つことが出来る。			
【公的関与の必要性】					
制作主体が伊賀白鳳高校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
木製ベンチは、伊賀鉄道伊賀線茅町駅の待合所に設置する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。			
TV（行政チャンネル等）	実施中	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRを行った。			
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
開発・制作を通じて、高校生は木工技術の習得及び受益者へのプレゼンテーションを経験することになり、人材育成の貴重な機会となっている。					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)
-----	---------------------------

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金				699,994	
事業費				699,994	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀白鳳高等学校 生徒による製品開 発	使用料				107,250	
	報償費				19,000	
	原材料費				425,364	
	需用費				148,380	
	計				699,994	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)
-----	---------------------------

7の(1). 写真



写真1

木製ベンチ制作状況



写真2

木製ベンチ制作状況



写真3

木製ベンチ模型



写真4

木製ベンチ模型



写真5

高校生によるプレゼンテーション



写真6

木工所及び製材所での研修

尾鷲市

第 1 1 号様式 (その 1) (評価委員会資料)

令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

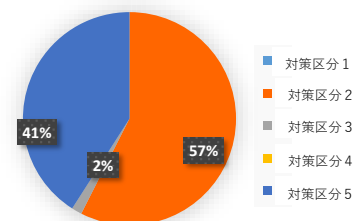
市町名	尾鷲市	三重県
人口 (人)	16,567	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	9.1%	12.4%
森林面積 (ha)	17,703.01	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	14,933.86	348,833.49
森林率 (%)	92.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	6.0	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	人家裏危険木伐採事業	1,277,000	1,277,000		1,277,000				
2	5	野鳥の小径遊歩道等整備事業	1,611,500	1,611,500					1,611,500	
3	5	中村山公園整備事業	1,980,000	1,980,000					1,980,000	
4	2	野地町駅前児童公園ほか整備事業	3,762,000	3,762,000		3,762,000				
5	3	木とふれあう学校環境づくり	136,400	136,400			136,400			
6		災害からライフラインを守る事前伐採事業	1,477,100	0						1,477,100
計			10,244,000	8,766,900	0	5,039,000	136,400	0	3,591,500	1,477,100

3. 令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	2.85ha	3,733,400	3,733,400	間伐等 (災害緩衝林一体型)
森林再生力強化対策事業	966m	627,000	627,000	獣害防止施設設置等整備
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本市は面積の約90%を森林が占め、居住地のすぐ側に自然と触れ合える環境に恵まれている。古くから林業、漁業、農業など一次産業を中心としたまちとして歩んできた歴史があり、学校でも地域の産業を学ぶ授業でこれら地場産業の紹介がなされ、また、山・川・海をフィールドとした体験学習が実施されるなど、地域の歴史と循環型社会の展望を学ぶ場として森林は切っても切り離せない大切な役割を果たしている。 一方で、近年では災害による被害が拡大傾向にあることから、災害に強い森林づくりは大変重要なものと考えている。危険木等についても伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用する方法を考えると共に、災害の未然防止と森林教育の更なる充実を図る観点から事業の選定を実施している。
事業実施により期待される効果	人家裏や公園の危険木伐採は、災害に強い町づくりの推進に一定の効果が得られたと考えており、この点については、事業実施後の住民の反応や声をみても、いずれも好意的なものであったため、安心安全の確保に効果があったと感じている。また、野鳥の小径に設置した木製看板についても、遊歩道を散策しながら森林について学ぶ機会を整備することができたと考えており、今後のイベントなどでの活用が期待できる。 しかし、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり、木育等の事業は縮小又は中止せざるを得ない状況が続いており、計画策定時に想定していた取組みの完全実施には至らなかったため、コロナ禍での有効なイベントの開催方法を引き続き模索していきたい。
情報発信への取組	令和2年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、体験や交流のイベントはほとんど開催できなかったため、ホームページや広報誌での情報発信がほとんどであった。危険木除去等では伐採した箇所に看板を設置する等し、一定の周知は図れたと思うが、コロナ禍でも実施できる活動等と併せた情報発信を考えていく必要があると感じた。

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	10,769	10,769
2	⑰ 基金積立 (森林整備等)	17,738	17,738
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	28,507	28,507

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	人家裏危険木伐採事業					
事業費	1,277,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,277,000			

1. 事業の目的	
人家に密接する放置林において、災害を未然に防止する観点から、自治会等による人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採する必要がある場合に限り、その費用の一部を補助する。	
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】	
自治会・自主防災会等	
【実施個所及び箇所数】	
3地区 (北浦地区、北浦西地区、須賀利地区)	
【事業量】	
北浦地区：6本、北浦西地区：30本、須賀利地区：10本	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】	
当地域は、背後に急傾斜を有する人家が多く、台風や集中豪雨の際に風倒木等の恐れがある。危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することにより、災害を未然に防止し、森林の適正な整備が促進される。また、地域住民がお互いに災害の危険性を認識していただくことで、森林整備の必要性を改めて認識される。	
【効果を発揮させるための工夫・取組】	
昨年度以前と同様に、要望が寄せられた自治会等の方々と森林伐採の専門家も同伴での現地確認を行うことで、より防災効果の見込める効果的な伐採箇所の選定を実施している。	
【新たな対策・視点及び改善点】	
事業の開始以降、地域住民や地区からの要望に基づき、市と住民が一体となった危険個所の点検や森林等の整備に活用されており、毎年度一定の効果が挙げられていることから、令和 4 年度も引き続きみえ森と緑の県民税を活用した事業を実施することで、実際に災害が発生した箇所など緊急性や危険性の高い要望を中心として補助を行い、森林の保全と整備を進める。	

令和3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	人家裏危険木伐採事業					
事業費	1,277,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,277,000			
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】						
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】						
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
	補助事業	自治会等	9/10以内	500,000円		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】						
補助事業であるため該当しない。						
【主な経費内訳】						
(別紙のとおり)						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【受益者及び、期待する波及効果】						
	受益者	危険木伐採により生活環境が向上する地区は3地区				
	期待する波及効果	森林の重要性に対する住民意識や防災意識の向上				
【公的関与の必要性】						
市が補助を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、災害時の倒木等を未然に防止する観点があるため						
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】						
管理などは森林所有者が行う。自治会等が森林所有者から事業実施の同意を得て危険木を伐採する事業であることから、転用等の一定の制限はかけていない。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の内容】						
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）				
HP掲載	実施前・後	実施前：令和3年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和4年度当初に令和3年度事業実績の報告				
広報誌掲載	実施前・後	令和3年6月号広報に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載。				
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。				
その他	実施前	実施主体である団体や森林所有者に対して、担当者より県民税制度の説明と周知を行なった。				
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
事業名	人家裏危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金(北浦第四)	危険木伐採(6本)	本	6.00	92,226	553,355	人家裏、斜面等
補助金(桜茶屋)	危険木伐採(30本)	本	30.00	21,193	635,800	人家裏、斜面等
補助金(須賀利)	危険木伐採(10本)	本	10.00	33,770	337,700	人家裏、斜面等
需用費	木製標柱	本	3.00	22,000	66,000	
※補助金(北浦第四)については、伐採箇所の横に谷川がある点や、民家が近くにある点等により、伐採本数は少ないものの、特殊伐採による作業で費						
合計					1,592,855	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7 の (1) . 写真

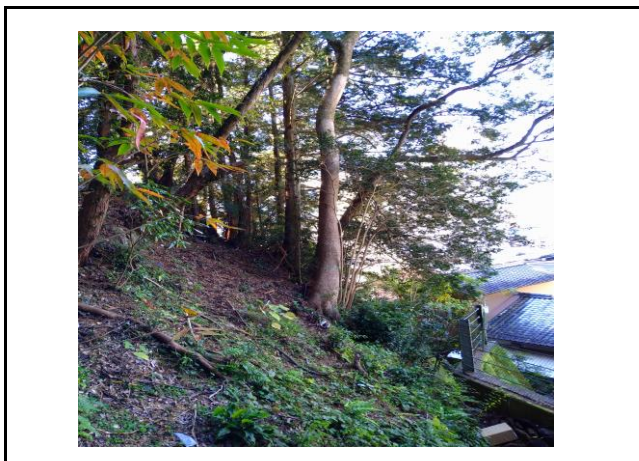


写真1

実施前 (北浦地区)



写真2

実施後 (北浦地区)



写真3

実施前 (北浦西地区)

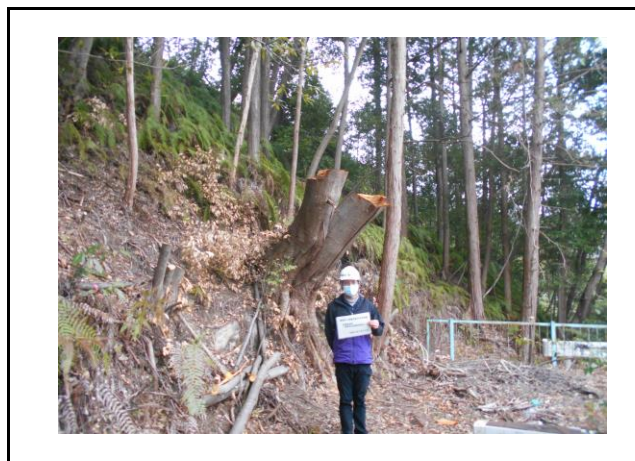


写真4

実施後 (北浦西地区)

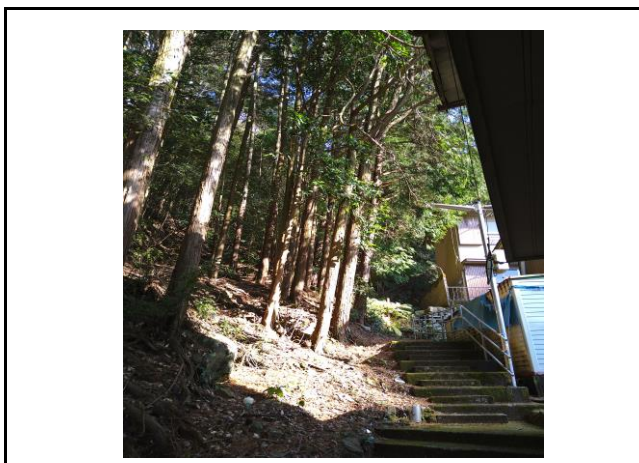


写真5

実施前 (須賀利地区)



写真6

実施後 (須賀利地区)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番号	事業名					
2	野鳥の小径遊歩道等整備事業					
事業費	1,611,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,611,500	0	0	

1. 事業の目的

尾鷲市三木里町にある野鳥の小径は、天然林の中に遊歩道や展望台が設置されており、多くの野鳥が観察できる森林公園である。しかし、来訪者が安全に歩くための目安となる、歩道の全体像を示す看板の老朽化が激しく、歩道ルートが鮮明に確認できない状況である。そのため地域住民が日ごろから環境整備に取り組んでいる野鳥の小径を来訪者が安心・安全に利用できるように、新たに木製の案内看板の整備を行い、森林や野鳥に親しむ環境整備を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

遊歩道に県産材を活用した案内看板を設置する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

野鳥の小径 (尾鷲市三木里町地内)

【事業量】

看板サイズ W)2,000mm×H)1,000mm を1基

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

三木里地区住民を中心に親しまれ、健康ウォーキングコースとしても設定されている遊歩道であるにも関わらず、コースを案内する看板が無く安心して利用できない。利用者が安心して、ウォーキングや森林浴を楽しめる場を提供することができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

安心安全にウォーキングを楽しんでいただくため、地域住民の方々と協働でウォーキングコースの安全点検や除草等の清掃活動を実施。

【新たな対策・視点及び改善点】

県民税事業であることを広く周知することにより、森林づくりへの意識、木材利用の理解が深まる。

令和3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
2	野鳥の小径遊歩道等整備事業				
事業費	1,611,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,611,500	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般競争入札の結果による

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	野鳥の小径を利用する来訪者、市民
期待する波及効果	ウォーキング大会のコースとして設定される効果が期待できる

【公的関与の必要性】

野鳥の小径の維持管理は地元の地区会に毎年委託しているが、契約金額が安価であり、看板刷新業務は規模が大きかったことから、契約金額内での事業実施が不可能であったため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

野鳥の小径の維持管理を委託している地元の地区会にて点検、補修を行っていただく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和3年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和4年度当初に令和3年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和3年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	木製看板内に県民税活用及びロゴマークを記載

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	野鳥の小径遊歩道等整備事業
-----	---------------

7の(1). 写真



写真1
野鳥の小径(尾鷲市三木里町地内)



写真2
県民税PR看板



写真3

写真3



写真4

写真4



写真5

写真5



写真6

写真6

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	中村山公園整備事業					
事業費	1,980,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,980,000			

1. 事業の目的

木と親しむことのできる市街地の中心にある自然豊かな中村山公園を整備し、安全安心に多くの市民が自然に触れ合う機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、危険木や景観上支障のある樹木及び雑草等の除去を実施した。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

中村山公園内 12地点

【事業量】

中村山公園に植生している危険木や景観上支障のある樹木及び雑草等の除去。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

昨年度、枯損木や危険木の伐採を行った結果、一部公園利用者の安全性を確保することができたが、現状においても、未だ木々が生い茂り危険木等も存在することから、引き続き、樹木等の伐採を行い、市民が使いやすく親しみやすい公園に整備することにより自然と触れ合える拠点を提供することができる。

また、天文科学館の反射望遠鏡の視界を遮っていた樹木を剪定したことにより、観測視野を確保することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採木は、ボランティア団体や近隣住民の意見を参考としながら選定をおこなった。

本事業により伐採した樹木跡などに、中村山再生プロジェクトが中心となって、隣接する小学校の卒業記念として2種類の桜 (各10本) の植樹を行い、より多くの市民・来園者が集える場所としていく。

【新たな対策・視点及び改善点】

中村山公園は津波災害時における避難箇所でありながら、土砂災害特別警戒区域でもあることから、伐採時には地盤に影響がないように、支障木の選定をしていく。

令和3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	中村山公園整備事業				
事業費	1,980,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,980,000		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	委託事業	森林組合	補助事業ではない	-	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
<ul style="list-style-type: none"> ・指名競争入札による業務委託 ・安全面と専門的な技術が必要となるため 					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	利用する市民			
	期待する波及効果	伐採により景観も良くなり、多くの住民が安心安全に遊べる場所となったとともに、桜の名所としての整備を行っていくことにより、将来市内外から来園者が訪れる公園を目指す。			
【公的関与の必要性】					
市有地であるため、市が管理を行う必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後	実施前：令和3年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和4年度当初に令和3年度事業実績の報告			
広報誌掲載	実施前・後	令和3年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載			
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
委託料	立木伐採処理	式	1.00	1,958,000	1,958,000	公園内12地点
需用費	木製看板	個	1.00	22,000	22,000	
合計					1,980,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

子育てHappyDayにおける青竹ふみ作り(その1)

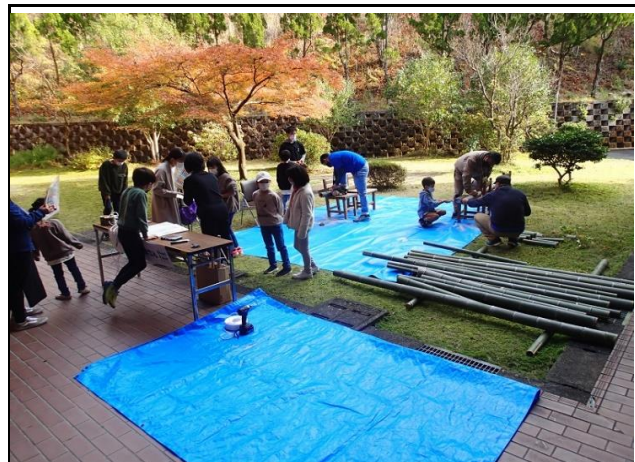


写真2

子育てHappyDayにおける青竹ふみ作り(その2)



写真3

天文科学館支障木 伐採前



写真4

天文科学館支障木 伐採後



写真5

尾鷲小学校卒業記念桜植樹



写真6

標柱碑設置写真

令和3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番号	事業名					
4	野地町駅前児童公園ほか整備事業					
事業費	3,762,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,762,000			

1. 事業の目的

子供から大人まで市民の憩いの場として活用されている住宅地に近い公園内の危険木の伐採や枝の剪定等を行い、公園利用者や公園隣接の道路通行者の安全を確保することにより、安全安心な自然や緑と親しむことのできる公園としての整備を行い、住民の心身の休養やレクリエーションコミュニティ育成の推進を図り、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・公園内において落下の恐れのある腐朽枝や園外の道路敷地に張り出した枝の剪定、倒木の恐れのある危険木の伐採、展望の支障となっている樹木の伐採、及び雑草等の除去を実施した。
- ・小学生を対象とした森林教育 (間伐、木工) については、新型コロナウイルス感染症の蔓延による緊急事態宣言が発令されたため、木工体験が予定日を大幅にずれての実施となった。(※共にアンケート調査も実施)

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

3 か所 (野地町駅前児童公園、矢浜公園、大曾根公園)

【事業量】

- ・野地町駅前公園 (355㎡)、大曾根公園 (1500㎡)
- ・矢浜公園 (2625㎡) において、夏と冬に各 1 回、間伐教室及び木工教室を実施

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

野地町駅前公園、矢浜公園については、子供から大人まで多くの市民憩いの場として活用している公園ではあるが、園内の樹木が高木となったり、枝が大きく張り出し危険な状態となってきていることから、それらを伐採することにより、安全安心に多くの市民が利用し、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

大曾根公園については、現状として木々が生き茂り、展望台からの眺望、景観共に良くないため、樹木等の伐採を行い、市民が使いやすく親しみやすい公園に整備することにより自然と触れ合える拠点を提供することができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

- ・大きく張り出したり、朽ちかけた枝を中心に選定を行うことで、桜の開花を楽しみにしていた市民の要望に応えるようにとともに、台風など強風時の枝折れの危険性を排除した。
- ・小学生を対象とした森林教育を実施することにより、次世代に木の大切さを繋げていく。冬休みに木工教室にて使用した木材は、夏休みに間伐体験で小学生自身が間伐した木を主に使用することで、愛着を持って作り、使用してもらえるようにした。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林教育の実施において、新型コロナウイルスがまん延した場合の感染対策、及び安全な実施体制についての検討。

令和3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
4	野地町駅前児童公園ほか整備事業				
事業費	3,762,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,762,000		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	委託事業	森林組合	補助事業ではない	-	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
<ul style="list-style-type: none"> ・指名競争入札による業務委託 ・安全面と専門的な技術が必要となるため 					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	利用する市民および市内外からの来訪者			
	期待する波及効果	野地町駅前公園、矢浜公園については、危険な状態となっていた園内の樹木を伐採、剪定したことにより、来園者が安心して利用することができるようになった。 大曾根公園については、樹木等の伐採を行ったことで、展望台からの眺望、景観が改善され眺望が良くなったことで、来園者の増加につながる。			
【公的関与の必要性】					
市有地であるため、市が管理を行う必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後	実施前：令和3年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和4年度当初に令和3年度事業実績の報告			
広報誌掲載	実施前・後	令和3年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載			
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

事業名	野地町駅前児童公園ほか整備事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
委託料	立木伐採処理	式	1.00	3,762,000	3,762,000	28本ほか剪定
			合計		3,762,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	野地町駅前児童公園ほか整備事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

森林教育 (間伐体験)



写真2

森林教育 (木工体験)



写真3

野地町駅前児童公園 施工前



写真4

野地町駅前児童公園 施工後



写真5

大曽根公園伐採後



写真6

標柱碑設置 (矢浜公園)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
5	木とふれあう学校環境づくり事業					
事業費	136,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			136,400			

1. 事業の目的

本交付金を活用し、市産材で制作した木製の机・椅子を平成26年度に宮之上小学校へ、令和元年度に賀田小学校へ配置し、木の温もりにふれあう快適な学習環境を構築した。将来にわたって児童が自分の机・椅子として使用するとしているが、日々の使用によって損傷するため、これを修理し再使用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製機の修理又は損傷の激しいものは部品 (県産材) 交換を行う。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

尾鷲市教育委員会

【実施個所及び箇所数】

尾鷲市立宮之上小学校

尾鷲市立賀田小学校

【事業量】

市産材で制作した組立式の机の天板 (宮之上小学校16枚、賀田小学校4枚)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

交付金事業により、木製の机・椅子を整備することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。木製ということもあり、使用により損傷してしまうものもあるが、将来にわたって使用する計画であることから、修理し再使用することとしている。このことから、物を大切にしようとする心を養うことができ、さらに、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を得ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

宮之上小学校については、尾鷲ヒノキでできていることを説明し新入生自ら机の天板の交換を実施した。

賀田小学校については、尾鷲市の取組で木育を実施した際に、山林に入り実際に植林された尾鷲ヒノキを前に緑の循環の説明を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

机の天板交換については、毎年よい評価を得られていると思われるので継続することが大切だと思われる。また、学校が実施主体ということもあり森林環境に関する単元を精査し、直接机と椅子が教材となるような整理を図る

令和3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業				
事業費	136,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			136,400		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	その他	森林組合	補助事業ではない	-	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
机・椅子の納入業者であり、保守修繕まで一貫した対応が可能であるという理由で選定					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	宮之上小学校・賀田小学校の児童（20名）			
	期待する波及効果	学校を主体に実施することで児童生徒及び保護者への波及効果や将来に向かっての波及を見込むことができる			
【公的関与の必要性】					
教育機関への、学習機会の提供であることから費用にかかる公的関与は必要であると考えます。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
天板の研磨再利用自体が、管理方法となっている。学校の児童生徒用の机・椅子であるので目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後	実施前：令和3年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和4年度当初に令和3年度事業実績の報告			
広報誌掲載	実施前・後	令和3年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載			
その他	実施中	県民税を活用した取り組みであることを参加者に説明した。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------	-----	-----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
木製児童用机	天板研磨再塗装	式	1.00	136,400	136,400	20枚
			合計		136,400	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

天板を磨く児童



写真2

天板と森林について学ぶ児童①



写真3

天板と森林について学ぶ児童②



写真4

天板と森林について学ぶ児童③

写真5

写真6

写真5

写真6


[防災情報](#) [詳しく見る](#) ▶

[尾鷲の観光情報](#) [詳しく見る](#) ▶

 [検索](#)
[ホーム](#)
[生活・手続](#)
暮らしや福祉の情報など

[市政情報](#)
市の施策・財政状況・入札情報など

[組織一覧](#)
組織から探す

[ホーム](#) [組織一覧](#) [農林振興係](#) [尾鷲の林業](#)

令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る事業計画について

[2021年8月1日]

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業計画

基本枠・加算枠事業

令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、次の6事業を計画しています。

1. 人家裏危険木伐採事業

倒木等の危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することで災害を未然に防止するために、自治会などによる人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助していきます。

2. 尾鷲市集落周辺森林（里山）整備事業

市民が主体的に取り組む集落周辺の森林や熊野古道等の森林整備活動に対して、活動費用の一部を補助していきます。

3. 野鳥の小径遊歩道等整備事業

地域住民が日ごろから環境整備に取り組んでいる野鳥の小径について、来訪者が安心・安全に利用できるように、新たに歩道の全体像を示す木製の案内看板を整備していきます。

4. 中村山公園整備事業

市街地の中心にある中村山公園の枯損木や雑草木などの除去を行い、危険を未然に防ぐことで、多くの市民が安心安全に自然に触れ合える拠点として整備していきます。

5. 野地町駅前児童公園ほか整備事業

公園内の樹木の中でも落下の恐れがある枝や、遊歩道や展望台沿いに張り出した枝の剪定等を行い、安心安全に自然や緑と触れ合うことができる公園の整備を進め、住民の豊かな生活環境の実現を目指します。

6. 木とふれあう学校環境づくり事業

宮之上小学校、賀田小学校へ尾鷲産材で製作した木製の机・椅子の備品整備を行なったものを再利用し、新入生が損傷部分を自ら取り換え組立て等を行ない、木材への関心と愛着を持ち大切にする心を継続的に育む学校環境づくりを進めていきます。

連携枠事業

令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、次の2事業を計画しています。

- 流域防災機能強化対策事業（間伐等）
- 森林再生力強化対策事業（獣害防止施設等設置）

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った まあまあ役に立った どちらともいえない あまり役に立たなかった

2022/04/25 14:34

令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る事業計画について | 尾鷲市役所

役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった まあまあ見つけやすかった どちらともいえない やや見つけにくかった
見つけにくかった

このページに関してのご意見がありましたらご記入ください。

(注意) お答えが必要なお問合せは、直接担当部署へお願いいたします(こちらではお受けできません)。

送信

お問い合わせ

尾鷲市役所市長部局水産農林課農林振興係

電話: 0597-23-8224 ファックス: 0597-22-9184

[お問い合わせフォーム](#)

令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る事業計画についてへの別ルート

[ホーム](#) [お知らせ・報道・その他](#)

[ホーム](#) [市政情報](#) [産業](#) [林業](#)

[ホーム](#) [新着情報](#)

[ページの先頭へ戻る](#)

尾鷲市役所

〒519-3696 三重県尾鷲市中央町10番43号 [市役所へのアクセス](#)

電話: 0597-23-8132(平日昼間) 23-8111(休日・夜間) ファックス:
0597-22-2111 開庁: 平日8:30~17:15

E-mail: koho@city.owase.lg.jp (メールソフトが起動します)

Copyright (C) Owase All Rights Reserved.

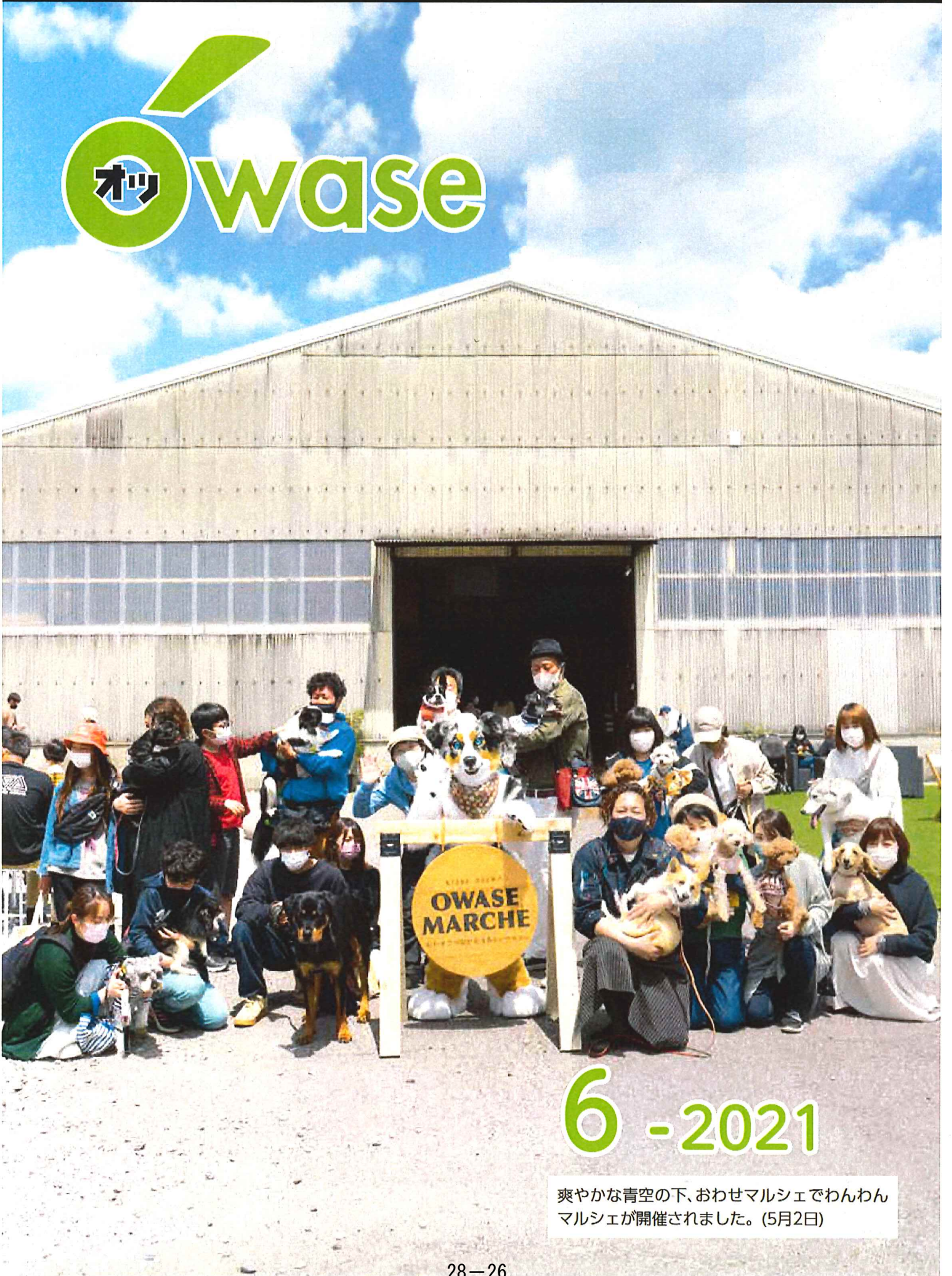


オワセグで最新情報配信中！

緊急情報や行政情報など尾鷲市の情報を随時配信しています。公式ツイッターもあります！



オワセグ



6 - 2021

爽やかな青空の下、おわせマルシェでわんわんマルシェが開催されました。(5月2日)

みえ森と緑の県民税市町交付金事業

市民の皆さんからいただいた森と緑の県民税は、身近なところで活用されています。今月号では、令和2年度に行った取り組みと令和3年度の計画について紹介します。

令和2年度実績報告

①人家裏危険木伐採事業

倒木等の危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することで災害を未然に防止するために、3地区の自治会などに人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助しました。

②“森の国”尾鷲の自然環境人材育成事業

地域住民や三重大学の学生等と連携し、小学生を対象とした尾鷲市の自然を活かした木育や山と海の繋がりを学ぶことができる自然体験事業を実施することで、地域の山、川、海への関心を高めると共に、自然の大切さをより深く学ぶことができました。

③クップ普及推進事業

三重国体に向けて地元産材の尾鷲ヒノキで整備した「クップ」を活用し、コロナ禍であることを考え、少人数での先進地の視察、小規模での体験会の開催等を通じ、スポーツ振興と森林教育を行いました。

④木とふれあう学校環境づくり事業

宮之上小学校において、尾鷲産材で製作した木製の机・椅子の備品整備を行なったものを再利用し、新入生が損傷部分を自ら取り換え組立て等を行ない、木材への関心と愛着を持ち大切にすることを継続的に育む学校環境づくりを行いました。

⑤三木里地区憩いの場整備事業

来訪者や通行人が安心安全に身近な自然と触れ合うことができるよう、安全上支障のある樹木の枝払いを行い、地域住民の皆さんが集いやすい場所を整備しました。

⑥中村山公園整備事業

市街地の中心にある中村山公園の枯損木や雑草木などの除去を行ない、多くの市民が安心安全に自然に触れ合える拠点の整備に努めました。

令和3年度事業計画

①人家裏危険木伐採事業

倒木等の危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することで災害を未然に防止するために、自治会などによる人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助していきます。

②尾鷲市集落周辺森林(里山)整備事業

市民の皆さんが主体的に取り組む集落周辺の森林や熊野古道等の森林整備活動に対して、活動費用の一部を補助していきます。

③野鳥の小径遊歩道等整備事業

地域住民が日ごろから環境整備に取り組んでいる野鳥の小径(三木里町)について、来訪者が安心・安全に利用できるように、新たに歩道の全体像を示す木製の案内看板を整備していきます。

④中村山公園整備事業

市街地の中心にある中村山公園の枯損木や雑草木などの除去を行ない、危険を未然に防ぎ、多くの市民が安心安全に自然に触れ合える拠点として整備を進めていきます。

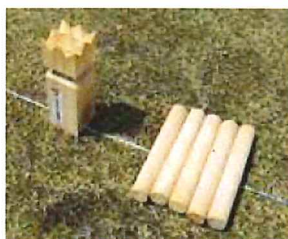
⑤野地町駅前児童公園ほか整備事業

子どもから大人まで市民の憩いの場として活用されている住宅地に近い公園内の危険木の伐採や枝の剪定等を行い、住民の心身の休養やレクリエーションコミュニティ育成の推進を図り、豊かな生活環境を実現することを目的とします。

公園内樹木の落下の恐れのある腐朽枝や園外の道路敷地に張り出した枝の剪定、倒木の恐れのある危険木の伐採、展望の支障となっている樹木の伐採、及び雑草等の除去を実施します。

⑥木とふれあう学校環境づくり事業

宮之上小学校、賀田小学校へ尾鷲産材で製作した木製の机・椅子の備品整備を行なったものを再利用し、新入生が損傷部分を自ら取り換え組立て等を行ない、木材への関心と愛着を持ち大切にすることを継続的に育む学校環境づくりを進めていきます。



お知らせ

相談

無料法律相談(要予約)

財産、契約問題、債務問題、離婚、相続等
 18日(金)午前11時～午後3時40分
 大川哲次 弁護士

司法書士相談

相続、商業登記、遺言等
 15日(火)午前10時～正午
 井上文雄 司法書士

人権相談

差別、いじめ、嫌がらせ等
 人権に関する問題
 1日(火)午前10時～正午
 尾鷲市人権擁護委員 7人

行政相談

行政に関する苦情、要望等
 23日(水)午前10時～正午
 林正弘 行政相談委員
 申し込み・お問い合わせ
 市民サービス課 ☎②8250

三重大学連携室相談

専門知識で、企業等が抱える経営問題の解決の糸口を提供します。
 16日(水) 午前10時～正午、
 午後1時～4時
 ※前日午後1時まで予約してください。
 ※相談日は変更する場合があります。

申し込み・お問い合わせ

政策調整課 ☎②8134

人家裏危険木伐採事業補助金

「みえ森と緑の県民税交付金を活用し、自治会などが事業主体となり、人家に隣接する山林において、倒木等の災害を未然に防止するために危険木を伐採する必要がある場合に限り、予算の範囲内で伐採費用の一部を補助します。詳細については、お問い合わせください。

【補助率】80%
 【補助額上限】1事業あたり50万円

お問い合わせ
 水産農林課 ☎②8224

尾鷲の木で家を建てれば

30万円の補助があります！

地元産材の活用促進と市内木材産業の振興を目的に、「市内に住宅を建てる人」を支援するため、尾鷲産材活用促進事業を実施しています。

この事業では、ヒノキやスギなどの地元産材を、「80㎡以上の新築及び、増築住宅の構造材などに使用する人」に対して、「予算の範囲内」で補助を行います。申し込みは、構造材の出荷が完了次第行い、遅くとも建前完了までに申請書を提出してください。

尾鷲産材活用促進事業 補助金30万円
 次の主な要件を満たすことが必要です。
 ①構造材
 構造材に、尾鷲産材(市内の製材所から出された木材)を100%使用すること。

②内装材
 主要な部屋の床や壁の内装材に、尾鷲産材(市内の製材所から出された木材)を合計5坪以上使用すること。

③合併処理浄化槽
 合併処理浄化槽を設置すること。

※詳しくは、お問い合わせください。

お問い合わせ 水産農林課 ☎②8224



「がん患者と家族の方のおしゃべりサロン in 東紀州」

【開催日時】6月30日(水)

午後1時30分～3時30分

【場所】中央公民館

【対象】がん患者・家族

【参加費】無料

【参加申込】必要

申し込み・お問い合わせ

三重県がん相談支援センター

☎059・223・1616

※新型コロナウイルス感染症や悪天候の影響により中止になることがあります。事前に確認してください。

有料広告欄

広告を掲載しませんか

「広報おわせ」に掲載希望の広告を募集しています。

大きさ	1 枠 縦 50mm×横 80mm	詳しくは、お問い合わせください。 政策調整課 ☎②8132
掲載料	1 枠につき月額 市内業者 10,000円 市外業者 15,000円	

紀北町

令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (令和2年度版三重県市町要覧による)

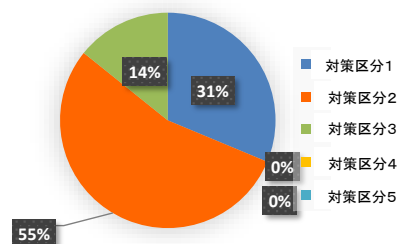
市町名	市町名	三重県
人口 (人)	14,752	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	8.1%	12.4%
森林面積 (ha)	22.93	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	18,009.40	348,833.49
森林率 (%)	89.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	52.1	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	1	河川周辺森林立枯木整備事業	1,145,100	1,145,100	1,145,100					
2	2	危険木伐採事業	1,893,000	1,893,000		1,893,000				
3	2	集落周辺森林 (里山) 整備事業	101,100	101,100		101,100				
4	3	森林環境教育活動支援事業	520,974	520,974			520,974			
5	4	町内学校等木質化事業 (基金積立)	7,373,826	0						7,373,826
計			11,034,000	3,660,174	1,145,100	1,994,100	520,974	0	0	7,373,826

3. 令和3年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	7.1ha	1,791,979	1,791,979	等高線並べの間伐による緩衝林化
森林再生力強化対策事業	4627m	2,600,478	2,600,478	鳥獣害防護柵新設・補修
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

<p>事業方針</p> <p>紀北町は、年間を通じて温暖で降水量が多いという育林に適した気候条件に恵まれ、森林面積(22,976ha)は町総面積の約90%を占め、古くから林業が盛んに行われている。森林の再生と森林の持つ多面的機能の持続的な発揮に向けた整備と保全に向け、林道の整備や人家裏危険木の伐採、小中学生等への林業のPRなど多様で健全な林業経営基盤の確立を促進する。また、地元材の利用促進、里山整備、木質バイオマスの活用、新たな木材利用への転換とともに、林業の活性化に繋げていく。</p>
<p>事業実施により期待される効果</p> <p>河川周辺森林立枯木整備事業では立枯木を伐採することにより、大雨が降った際に下流域の橋梁等を損傷させてしまうリスクを減らすことができた。危険木伐採事業においては、事業実施主体である各区の森林管理意識向上が見られ、補助金活用の要望が増加した。森林環境教育活動支援事業では補助事業が中学校1校、町主体の環境教育を小学校2校と中学校1校で開催でき、この事業では尾鷲ヒノキ林業についての座学を森林組合おわせ職員に講師依頼し、町職員所有の山林にて間伐体験を行うことで、児童らは森林の大切さを学ぶことができた。感想として将来林業の仕事に就きたいとの声があり林業や森林環境に対する理解が得られた。集落周辺森林 (里山) 整備事業においてはNTRCの登山道整備により安全性が増してよくなったとの意見をいただいた。</p>
<p>情報発信への取組</p> <p>紀北パーキングエリア内の始神テラスの一角に展示スペースを設け事業成果を示したパネル展示や、ノベルティの配布を行った。また今年度は東京パラリンピックで聖火リレーに使用されたトーチを展示し、記念撮影可能にしたことにより来場者の目に留まることが期待できる。また、町民向けの行政放送テレビチャンネルで県民税について取り扱い、事業実施にはPR用の木製標柱を設置した。</p>

第 1 1 号様式 (その 1) (参考資料)

3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	10,925	10,925
2	⑯ その他 (木材・普及啓発関係)	3,550	2,787
3	⑯ その他 (木材・普及啓発関係)	3,851	3,850
4	⑰ 基金積立 (森林整備等)	28,645	28,645
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	46,971	46,207

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継 続の別	継続
番号	事業名				
4	河川周辺森林立枯木整備事業				
事業費	1,145,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,145,100		

1. 事業の目的					
<p>近年、集中豪雨や台風襲来により、山腹崩壊が多発し、土砂が河川沿いに堆積し、河川沿いの立ち枯れが生じている。これらの立ち枯れ木を放置すれば、今後の集中豪雨により立ち枯れ木が下流域に流れ出し、災害を引き起こす恐れが高いため、伐採・搬出し流木の発生を抑制する。</p>					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
河川周辺森林内において、河川沿いの立ち枯れ木等を伐採、搬出して流木の発生を抑制する。					
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】					
町					
【実施箇所及び箇所数】					
2箇所 (河内地区、十須地区)					
【事業量】					
河内地区105本、十須地区230本					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
過年度の集中豪雨等で堆積した土砂により枯れた立木を伐採、搬出することで下流域への流出が抑制され、実施地区での安全、安心が確保される。流域住民、漁業関係者等への流木被害が軽減された。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
伐倒木は下流域への影響が出ないように残置せずバイオマス搬出等で有効活用している					
【新たな対策・視点及び改善点】					
施業地を分割して広範囲を施業することができた。					

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	河川周辺森林立枯木整備事業				
事業費	1,145,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,145,100		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		実施主体が紀北町である

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

河川周辺での枯れ木伐採に係る作業技術を有している団体に見積りを徴収しを選出した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	流域住民、漁業関係者 長島地区 約1488戸 海山地区 約1789戸
期待する波及効果	流域住民の安全確保、漁業関係者への被害軽減

【公的関与の必要性】

個人では立ち枯れ木の伐採には手間も費用も掛かることで伐採が遅れてしまうため、町が関与する必要がある

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

特に設けていない

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民や所有者から、河川内の状況がよくなったと好評を得ている。

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町
事業名	河川周辺森林立枯木整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託料	伐採搬出経費	本	105.00	7,742	812,900	十須地区(230本)
委託料	伐採搬出経費	本	230.00	1,205	277,200	河内地区(105本)
標柱代	みえ森と緑の県民税標柱	本	2.00	25,000	50,000	
			小計		1,140,100	
			消費税及び地方税相当額		5,000	10%
			合計		1,145,100	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	河川周辺森林立枯木整備事業
-----	---------------

7 の (1) . 写真



写真1

大郷 【実施前】



写真2

大郷 【実施後】

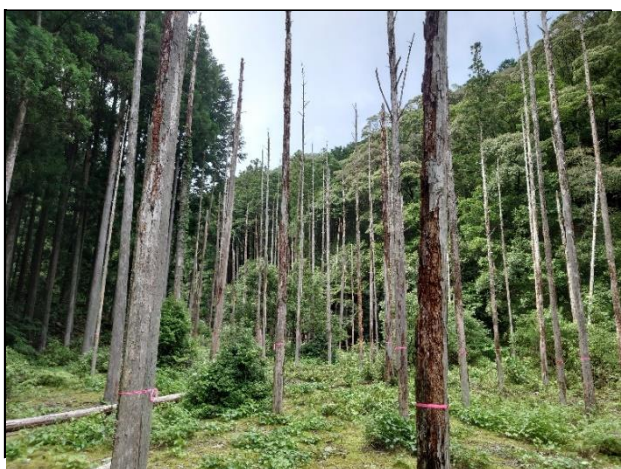


写真3

江竜 【実施前】



写真4

江竜 【実施後】

写真5

写真6

写真5

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	危険木伐採事業					
事業費	1,893,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,893,000			

1. 事業の目的						
<p>人家その他公共施設等に密接し、倒木の危険性のある立木による被害を未然に防止し、生活環境の保全や向上を図る観点から人家裏山林の危険木の伐採費用について補助を行う。</p>						
2. 事業実績概要						
<p>【事業内容】 人家に隣接し、倒木になる恐れのある山林内の危険木について、緊急に伐採等する必要がある場合に限り、その費用の一部を自治会に補助する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 自治会</p> <p>【実施箇所及び箇所数】 4箇所 (4自治会) 片上2区1カ所計46本、矢口浦区1カ所計4本、志子区1ヶ所35本、馬瀬区1ヶ所6本</p> <p>【事業量】 4箇所 91本</p>						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
<p>【事業実施により期待される効果】 人家背後の急傾斜地の危険木を伐採したことにより、集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境が向上し、安全、安心が確保され、事業を受けることによって住民の森林整備に対する意識の向上が見込める。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】 実施した自治会に回覧板等により周知する</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】 伐採対象を山林に加え「保安林」も対象にすることでより要望に対応が可能となるため令和4年に向けて町要綱の改正を準備中</p>						

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	危険木伐採事業				
事業費	1,893,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,893,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	1申請につき1年度50万円の上限	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請書の提出と早期対応の必要があるかを添付書類にて判断。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	4自治会 住宅 6戸
期待する波及効果	隣接する人家等の安全性の確保

【公的関与の必要性】

個人での危険木の伐採には手間も費用もかかり負担が大きいことから伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により転用や目的外使用について制限はかけていない。自治会が森林所有者から事業実施の同意を得た上で森林内での必要最低限の危険木伐採を行う

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

事業実施により森林所有者はもとより、各地区の住民が森林管理の必要性を再認識し、森林整備の意識醸成につながった。また各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7 の (1) . 写真



写真1

片上2区 【実施前】



写真2

片上2区 【実施後】



写真3

志子区 【実施前】



写真4

志子区 【実施後】



写真5

矢口浦区 【実施前】



写真6

矢口浦区 【実施後】

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7 の (1) . 写真



写真1

馬瀬区【実施前】



写真2

馬瀬区【実施後】

写真3

写真4

写真3

写真4

写真5

写真6

写真5

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	集落周辺 (里山) 整備事業					
事業費	101,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			101,100			

1. 事業の目的						
<p>当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。</p> <p>このような集落周辺等の荒廃が進む森林を住民自らが整備し、森林の持つ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく</p>						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
集落周辺等の荒廃森林や登山道において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設、土留めなどの森林整備活動に対して補助する。						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
地域住民で組織する団体 (ボランティア組織)						
【実施個所及び箇所数】						
2箇所 (1 団体)、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、松浦武四郎の道 木津道 団体名：NTRC						
【事業量】						
登山道整備						
大台ヶ原尾鷲道 11,100m 松浦武四郎の道 木津道 823m 面積 計1.78ha						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
不要な萌芽を除去し、散策路や森林整備作業時の安全、安心が期待できる。また、登山道が整備され、登山者の安全、安心が図られる事で地域住民等利用者の森林への関心を高める効果に期待できる。						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
NTRCに対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。						
【新たな対策・視点及び改善点】						
団体にホームページ、ブログ、SNS等で県民税活用の積極的なPRを求める。						

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	集落周辺（里山）整備事業				
事業費	101,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			101,100		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	その他	1ヘクタール当たり16万円を上限とする。補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。	3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の登山道等の整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	登山者、森林所有者
期待する波及効果	森林の適切な整備と、登山者の安全確保

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

登山者からは、登山道の環境が整備がされ、安全性が増したという意見をいただいている。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺(里山)整備事業
-----	--------------

7の(1). 写真



日付：2021年07月25日

水無峠口下大カーブ 路面修復(作道)作業中



日付：2021年07月25日

水無峠口下大カーブ 路面修復(作道)作業後



日付：2021年07月25日

危険カ所滑落防止ガイドロープ①設置作業後



日付：2021年07月25日

危険カ所滑落防止ガイドロープ②設置作業前



日付：2021年07月25日

危険カ所滑落防止ガイドロープ②設置作業中



日付：2021年07月25日

危険カ所滑落防止ガイドロープ②設置作業後

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺(里山)整備事業
-----	--------------

7の(1). 写真



日付：2022年03月06日

3/6 ジブツキ口 取り付け梯子②製作・設置作業前



日付：2022年03月06日

3/6 ジブツキ口 取り付け梯子②製作・設置作業前2



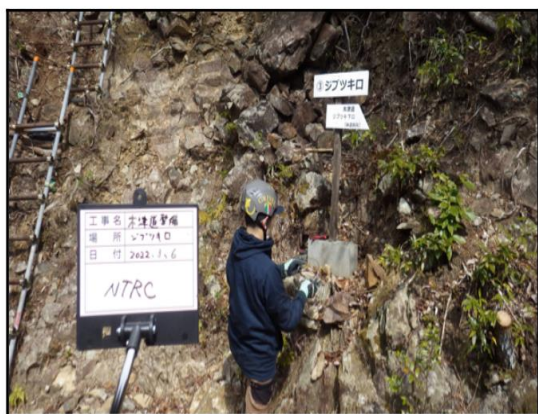
日付：2022年03月06日

3/6 ジブツキ口 取り付け梯子②製作・設置作業前3



日付：2022年03月06日

3/6 ジブツキ口 取り付け梯子②製作・設置作業前4



日付：2022年03月06日

3/6 ジブツキ口 取り付け梯子②製作・設置作業中5



日付：2022年03月06日

3/6 ジブツキ口 取り付け梯子②製作・設置作業後

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺(里山)整備事業
-----	--------------

7の(1). 写真



日付：2021年05月30日

木組峠出合標識補修・熊害対策①試験施工後



日付：2021年05月30日

中ノ峠～一本木間道標補修



日付：2021年05月30日

一本木～マブシ嶺間 新規道標設置作業前



日付：2021年05月30日

一本木～マブシ嶺間 新規道標設置作業中



日付：2021年05月30日

一本木～マブシ嶺間 新規道標設置作業後



日付：2021年05月30日

マブシ嶺山銘板(地点名標識)補修

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺(里山)整備事業
-----	--------------

7の(1). 写真



日付：2021年09月23日

腰森谷登山口 熊注意ポスター掲示



日付：2021年09月23日

一本木 風倒木伐採除去作業前



日付：2021年09月23日

一本木 風倒木伐採除去作業中



日付：2021年09月23日

一本木 風倒木伐採除去作業後



日付：2021年09月23日

マブシ嶺最高点付近 熊注意ポスター掲示



日付：2021年09月23日

一本木～マブシ嶺間 熊注意ポスター掲示

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	森林環境教育活動支援事業					
事業費	520,974 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			520,974			

1. 事業の目的						
環境林や公有林、学校林等を活用し、森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動、木育活動を実施し、次代を担う児童や生徒、地域住民に対して、森林の持つ様々な公益的機能や役割、森林環境に関する正しい知識の提供と理解の促進を図る機会を創出し、森林や林業に理解の深い人材の育成を目的とする。						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動では、森林教育として環境学習、森林自然観察会等、植樹、下刈り、枝打ち、及び間伐等の林業作業体験並びに炭焼き体験等や、木のおもちゃ作り等、木の実や木の葉などの森林の恵みを生かしたリース作り等、県産材を使用した身近な製品 (箸、コースター、ストラップ作り等) つくり等の活動を行う。						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
町						
【実施個所及び箇所数】						
町主体：赤羽中学校1～3年生10人、西小学校5年生18人、東小学校5年生17人 学校主体：三船中学校2・3年						
【事業量】						
町主体：森林組合おわせによる尾鷲ヒノキ林業に関する座学と山林での間伐体験を上記3校で実施 学校主体：木育活動、ザラ板製作						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
地域の林業についてを座学で学びその後、現地で実際に森林整備体験を行うことで森林環境の重要性への理解を深める事が期待できる。						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
本事業に向けて学校側であらかじめ環境学習を行っているところもあったため、児童らはどれくらいの学習を受けているのかを事前に確認打ち合わせることで学校の授業では得られない部分をより深く学ぶ森林への知識や興味を引き出すことが期待できる						
【新たな対策・視点及び改善点】						
事前打ち合わせ等であらかじめ質問や意見等を募り森林環境や林業に対する児童らの要望も取り入れつつ実施した。						

3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	森林環境教育活動支援事業				
事業費	520,974 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			520,974		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
その他	活動団体	10/10以内	補助の場合1学校当たり20万円を上限	学校主体の場合は補助事業、町主体の場合は直営

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

校長会により本事業の呼びかけを行い希望のあった学校で実施。町主体の事業に講師として尾鷲ヒノキ林業に詳しい森林組合おわせ職員を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加児童、生徒 中学生 31人、小学生 35人
期待する波及効果	林業に対する正しい知識の習得、職業としての林業従事者への興味

【公的関与の必要性】

現地での森林整備体験に町有林を活用可能。教育委員会及び学校との連携、調整が容易。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る
のぼり設置	実施中	実施箇所に設置し、町民に周知を図る

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

参加児童から感想の聞き取り時に、将来は林業の仕事に就きたいとの感想を得られた。

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育支援事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
資材費	三船中資機材購入	式	1.00	200,000	200,000	
報奨費	講師3名、資料作成	式	1.00	97,900	97,900	西小学校・東小学校開催
報奨費	講師4名、資料作成	式	1.00	56,100	56,100	赤羽中学校開催
消耗品費	安全仮枠鋸	本	14.00	2,460	34,434	
消耗品費	小型サイズヘルメット他	式	1.00	35,574	35,574	
消耗品費	レーザーソー仮枠270他	式	1.00	8,732	8,732	
消耗品費	標識ロープ他	式	1.00	1,838	1,838	
消耗品費	標識ロープ他	式	1.00	3,896	3,896	
標柱代	みえ森と緑の県民税標柱	本	3.00	25,000	75,000	
				小計	513,474	
				消費税及び地方税相当額	7,500	10%
				合計	520,974	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7 の (1) . 写真



写真1

環境教育 補助事業 三船中学校 作業中



写真2

環境教育 補助事業 三船中学校 作業中



写真3

環境教育 補助事業 三船中学校 作業中



写真4

環境教育 補助事業 三船中学校 作業中



写真5

環境教育 補助事業 三船中学校 完成



写真6

環境教育 補助事業 三船中学校 完成

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7 の (1) . 写真



写真1

環境教育 町主体 東小学校 座学



写真2

環境教育 町主体 東小学校 座学



写真3

環境教育 町主体 東小学校 間伐体験



写真4

環境教育 町主体 東小学校 間伐体験



写真5

環境教育 町主体 東小学校 間伐体験



写真6

環境教育 町主体 東小学校 間伐体験

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7 の (1) . 写真



写真1

環境教育 町主体 西小学校 座学



写真2

環境教育 町主体 西小学校 座学



写真3

環境教育 町主体 西小学校 間伐体験



写真4

環境教育 町主体 西小学校 間伐体験



写真5

環境教育 町主体 西小学校 間伐体験



写真6

環境教育 町主体 西小学校 間伐体験

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

環境教育 町主体 赤羽中学校 座学



写真2

環境教育 町主体 赤羽中学校 座学



写真3

環境教育 町主体 赤羽中学校 間伐体験



写真4

環境教育 町主体 赤羽中学校 間伐体験



写真5

環境教育 町主体 赤羽中学校 装備紹介



写真6

環境教育 町主体 赤羽中学校 生徒挨拶

紀北サービスエリア(始神テラス)におけるパネル展示



熊野市

令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

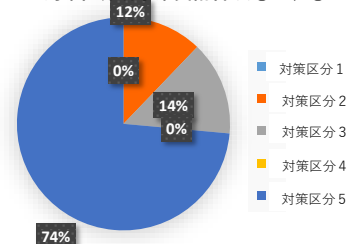
市町名	熊野市	三重県
人口 (人)	16,113	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	9.9%	12.4%
森林面積 (ha)	32,935.18	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	29,621.62	348,833.49
森林率 (%)	88.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	9.8	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	森林病害虫等防除実施事業	1,523,500	1,523,500		1,523,500				
2	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	11,049,300	11,049,300					11,049,300	
3	2	暮らしを守る危険木伐採事業	502,700	502,700		502,700				
4	5	景勝林等保護事業	1,205,600	1,205,600					1,205,600	
5	3	クマノザクラ整備・保全管理等事業	2,378,080	2,378,080			2,378,080			
				0						
				0						
				0						
計			16,659,180	16,659,180	0	2,026,200	2,378,080	0	12,254,900	0

3. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	7.16ha	4,409,900	4,409,900	災害緩衝林実施箇所周辺の調整伐
森林再生力強化対策事業	2,457m	2,278,647	2,278,647	獣害防護柵設置
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	熊野市の地勢は内陸に向かうに従って紀伊山地の急峻な山地となり、森林面積は総面積の88%を占めている。また、民有林面積は29,624haと全森林の約90%を占め、うち人工林は22,921haと県下でも有数の林業地域である。しかしながら、林業を取り巻く環境は木材の長期的な低迷に加え、担い手の減少、林業従事者の高齢化、生産基盤の立ち遅れ等が極めて厳しく、このまま推移すれば森林の整備水準の低下等により公益的機能が十分に発揮されないなど、住民生活への影響が懸念されている。そのため、「災害に強い森林づくりと環境林の保全」という熊野市森林・林業ビジョンの基本方針の1つに沿って、防災機能の強化による安全・安心の実現、里山林整備と奥地天然林や溪畔林の保全、身近な森林の恵みを活用する環境づくりなど、森林が与えてくれるさまざまな恩恵を評価した上で、森林と積極的に付き合っていく取組を展開していく。令和3年度については、地元住民が利用する生活道路に対して、日常生活はもとより、台風襲来や地震発生など有事の際にはより一層危険を及ぼすおそれのある枯損木や支障木を除去することにより、木々の防災機能の強化による安全・安心な暮らしの実現、さらには多くの利用者が継続して利用している森林公園のほか、街路樹や集落内の緑に対し、地元特有のクマノザクラを新植・保育することで魅力を向上させ、多くの利用者・来訪者に緑を身近に感じてもらう環境づくりに取り組んだ。
事業実施により期待される効果	市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業を行うことにより、安全・安心に地元の森林や自然とふれあう環境を整備することができ、市民だけでなく市への来訪者にも恩恵を受けてもらう。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中にあつて事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市のホームページに事業の計画と実績の紹介へ市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	6,360	6,360
2	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	2,049	2,049
3	⑰ 基金積立 (森林整備等)	61,670	61,670
4	⑦ その他 (森林整備)	17,096	17,096
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	87,175	87,175

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	森林病虫害等防除実施事業					
事業費	1,523,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,523,500			

1. 事業の目的

高度公益機能森林として防風・防潮・飛砂防止など、地域の暮らしの環境を守っている有馬町防風保安林内において、松くい虫の蔓延を防止するため、松くい虫防除作業を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

松くい虫被害を防止するため、樹幹への薬剤注入を行った。また、松くい虫の駆除を促進し、その蔓延を防止するため、伐倒駆除・くん蒸処理により森林の保全を実施した。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

熊野市 (委託先: 三重くまの森林組合)

【実施個所及び箇所数】

高度公益機能森林: 1.0ha

【事業量】

薬剤注入: 対象10本 (薬剤51本使用)、伐倒・くん蒸: 対象40本 (37.63m³)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

海岸林の松くい虫被害木の伐倒駆除と松くい虫の被害に遭うおそれのある松への薬剤注入を行うことで、地域住民が安全に身近な海岸林にふれあい、愛着を持つことで海岸林の必要性や保全に対する理解を深める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

定期的な林内の巡視を行い、松枯れの早期発見に努めている。

【新たな対策・視点及び改善点】

隣接する国有林でも防除作業を実施していることから、国有林と連携して一体的な防除作業をできるだけ早期に行うことができるよう市が主体的に関与して事業を実施する。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	森林病害虫等防除実施事業				
事業費	1,523,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,523,500		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	委託事業	森林組合	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
本事業で実施する薬剤の樹幹注入には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。					
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	1 地区（有馬町…2,022世帯・3,813人）			
	期待する波及効果	周辺を利用する観光客への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】					
複数の森林所有者が存在しているため、森林所有者の自主的な防除の実現可能性が極めて低く、早急に防除を実施する必要があることから市が行うのが適当である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
森林所有者が通常の責務を果たしていくことにより、森林の適正な維持が保たれる。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。			
のぼり設置	実施中	工事箇所に県民税ののぼり旗を設置した。			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。			
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。			
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
倒木の懸念がなくなって安心であると国道利用者からの声があった。					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	----------------	-----	-----

事業名	森林病虫害等防除実施事業
-----	--------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
薬剤注入	アンプル数51本	本	51.00	3,000	153,000	対象木10本
伐倒・くん蒸	伐倒、枝払、玉切含む	m ³	37.63	32,740	1,232,006	対象木40本
			小計		1,385,006	
			消費税及び地方税相当額		138,501	10%
			合計		1,523,507	調整後1,523,500円

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林病虫害等防除実施事業
-----	--------------

7の(1).写真



写真1

施工前①



写真2

施工後①



写真3

施工前②



写真4

施工後②



写真5

薬剤注入(施工後)



写真6

伐倒駆除・くん蒸(施工後)

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林病虫害等防除実施事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

施工中①



写真2

施工中②



写真3

施工中③(薬剤注入)



写真4

施工中④(伐倒駆除)



写真5

施工中⑤(くん蒸)



写真6

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事業費	11,049,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,824,120	2,225,180	

1. 事業の目的					
市民が身近に水や緑を感じ、地域の歴史や自然に親しむことのできる森林公園の整備を行うことで、より市民に利用され、日常的に森林環境学習や木育の拠点として水や緑に親しむ箇所を創出する。また、令和 2 年 11 月に熊野市の花木に指定した、この地域固有の種であるクマノザクラにより新たな魅力付けを行い、より緑や樹木に対する県民の関心を高める。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
森と緑と日常的に快適にふれあえることのできる拠点づくりのため、歩道の修繕や枯損木・雑草木の除去、クマノザクラの植栽・保育等を行った。また、クマノザクラに誇りと愛着を持ってもらうために樹木医による地元の木本中学校の生徒へクマノザクラの勉強会を行うとともに、身近な学校生活の場で木材を利用し、木に親んでもらうために渡り廊下で使用するザラ板を製作した。					
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】					
熊野市 (委託先: 三重くまの森林組合、木楽 Nakamura)					
【実施箇所及び箇所数】					
下刈等: 6 箇所 (鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、湯ノ口公園、夕陽の丘公園、田平子公園、小口谷クマノザクラ園地)、支障木伐採: 1 箇所 (大峰近隣公園)、クマノザクラ植栽: 1 箇所 (大峰近隣公園)、木育: クマノザクラ勉強会 1 回、ザラ板製作 1 回					
【事業量】					
下刈等: 13.45ha、支障木伐採: 0.38ha、クマノザクラ植栽: 60本、クマノザクラ勉強会: 木本中学校生徒会 7 名参加、ザラ板製作: 18 枚 (木本中学校 3 年生 44 名参加)					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
森とのふれあいの場を整備することで日頃から森林にふれあうことのできる環境を提供できる。同時に、それぞれの森林公園等を利用する協力団体が実施する森林環境学習等を通じて、より市民が森林にふれあうという相乗効果を図ることができる。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
整備を実施した施設に対しては、周辺の宿泊施設での館内放送・マップ配布により利用を促進している。また、トレイルランニングレースやボルダリング大会などのイベント時の利用を行い、施設のPRを行っている。					
【新たな対策・視点及び改善点】					
これまでも適切な整備を行うことで快適な利用が可能になっていると市民から好評を得ているため、今後も継続して整備を行う必要がある。					

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事業費	11,049,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,824,120	2,225,180	
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	森林組合	補助事業ではない			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
本事業で実施する山林内での下刈や支障木伐採には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	年間予想利用者38,100人（鬼ヶ城園地30,000人、小鳥の囀る森公園300人、湯ノ口公園7,000人、夕陽の丘公園300人、田平子公園300人、小口谷クマノザクラ園地100人、大峰近隣公園100人）				
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる				
【公的関与の必要性】					
対象となる施設は市の管理施設であり、これらを整備してさらなる利用者の増加を図り、森林のもたらす恩恵を利用者に享受してもらうことが市の方針である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。			
のぼり設置	実施中	工事箇所に県民税ののぼり旗を設置した。			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。			
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。			
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
下刈によって快適に施設が保たれていると好評である。また、新植したクマノザクラについては付近の景観も改善され、今後が非常に楽しみであるとの声が寄せられている。					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市
------	--------------------	-----	-----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

(森林公園の下刈等)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
下刈		ha	13.18	173,440	2,285,000	
歩道草刈り		ha	0.27	264,604	71,000	
諸経費					913,000	
小計					3,269,000	
消費税及び地方税相当額					326,900	10%
合計					3,595,900	
入札後					3,589,300	

(大峰近隣公園・支障木伐採)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木伐採		ha	0.38		2,514,000	
諸経費					1,032,000	
小計					3,546,000	
消費税及び地方税相当額					354,600	10%
合計					3,900,600	

(大峰近隣公園・クマノザクラ植栽)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
植栽	H=2.5~4.0m	本	60.00		2,734,000	
諸経費					320,000	
小計					3,054,000	
消費税及び地方税相当額					305,400	10%
合計					3,359,400	

(大峰近隣公園・クマノザクラ木育用物品購入)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
木育材料費①	桧板1800×100×15	枚	108.00	507	62,000	渡り廊下ザラ板製作用
木育材料費②	桧板700×45×30	枚	90.00	200	18,000	
その他木育用物品					120,000	虫よけ剤、選定バサミ等
合計					200,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

施工前①(下刈・鬼ヶ城園地)



写真2

施工後①(下刈・鬼ヶ城園地)



写真3

施工前②(下刈・小鳥の囀る森公園)



写真4

施工後②(下刈・小鳥の囀る森公園)

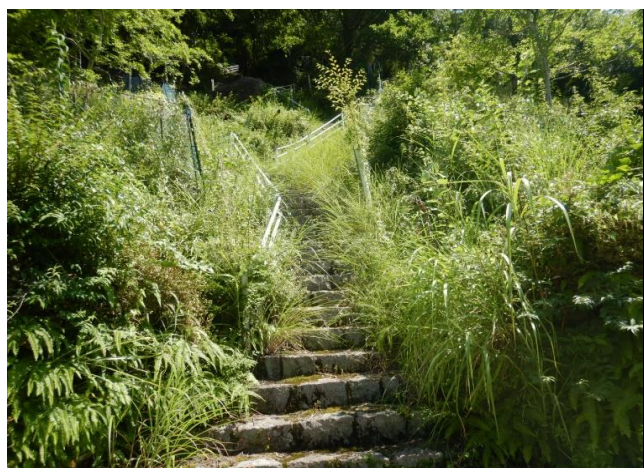


写真5

施工前③(下刈・湯ノ口公園)

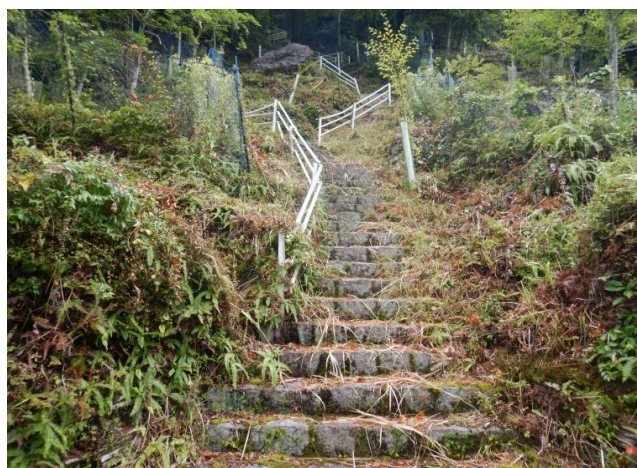


写真6

施工後③(下刈・湯ノ口公園)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真

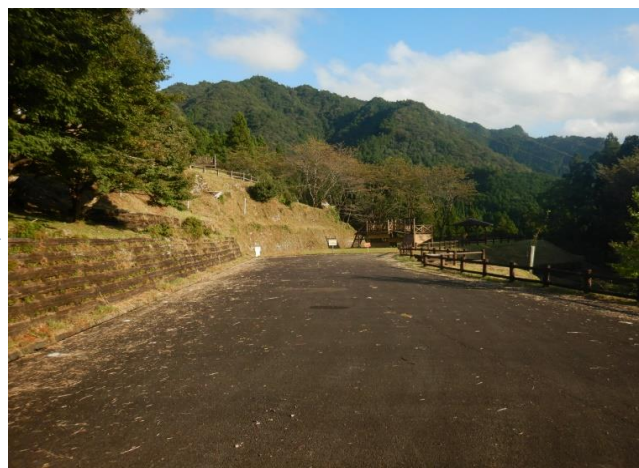


写真1

施工前④ (下刈・夕陽の丘公園)

写真2

施工後④ (下刈・夕陽の丘公園)



写真3

施工前⑤ (下刈・田平子公園)

写真4

施工後⑤ (下刈・田平子公園)



写真5

施工前⑥ (下刈・小口谷クマノザクラ園地)

写真6

施工後⑥ (下刈・小口谷クマノザクラ園地)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

施工中① (下刈・鬼ヶ城園地)



写真2

施工中② (下刈・小鳥の囀る森公園)



写真3

施工中③ (下刈・湯ノ口公園)



写真4

施工中④ (下刈・夕陽の丘公園)



写真5

施工中⑤ (下刈・田平子公園)



写真6

施工中⑥ (下刈・小口谷クマノザクラ園地)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

施工前① (大峰近隣公園クマノザクラ植栽)



写真2

施工後① (大峰近隣公園クマノザクラ植栽)



写真3

施工前② (大峰近隣公園クマノザクラ植栽)



写真4

施工後② (大峰近隣公園クマノザクラ植栽)

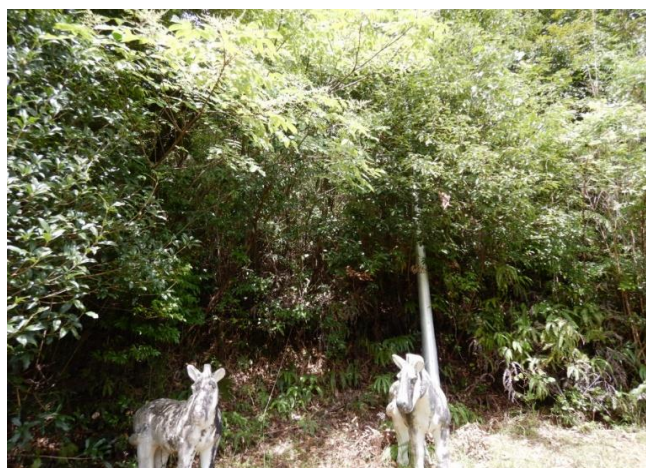


写真5

施工前③ (大峰近隣公園クマノザクラ植栽)



写真6

施工後③ (大峰近隣公園クマノザクラ植栽)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

施工中① (大峰近隣公園・支障木伐採中)



写真2

施工中② (大峰近隣公園・地拵え中)



写真3

施工中③ (大峰近隣公園・クマノザクラ植栽中)



写真4

木本中学校生徒会へのクマノザクラ勉強会①



写真5

木本中学校生徒会へのクマノザクラ勉強会②



写真6

木本中学校3年生によるザラ板づくり①

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1
木本中学校 3 年生によるザラ板づくり②



写真2
木本中学校 3 年生によるザラ板づくり③



写真3
木本中学校 3 年生によるザラ板づくり④



写真4
木本中学校 3 年生によるザラ板づくり⑤



写真5

写真5

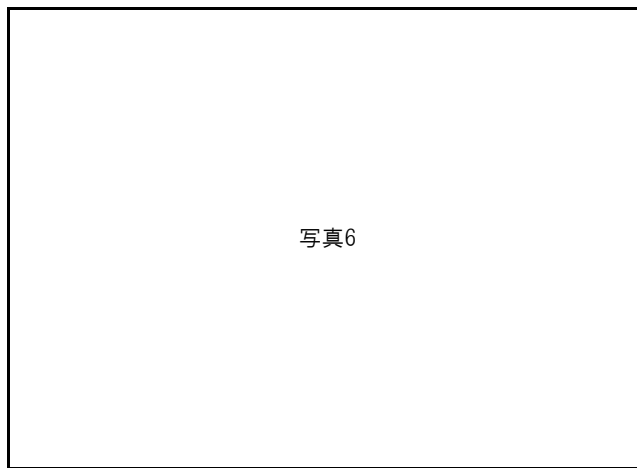


写真6

写真6

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	暮らしを守る危険木伐採事業					
事業費	502,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			502,700			

1. 事業の目的						
<p>集落間を結ぶ生活道路沿いの倒木や落枝のおそれのある危険木や枯損箇所を伐採することにより、台風等の影響により倒木となり生活道路が閉鎖され、集落が孤立することを未然に防止し、日常生活が確保されることを目的とする。</p>						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
<p>集落間の生活道路となっている林道滝向線沿いにおいて、周辺地域住民などの利用者の安全・安心を確保するため、倒木等のおそれのある危険木や枝を伐採した。</p>						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
熊野市 (委託先：三重くまの森林組合)						
【実施個所及び箇所数】						
1 路線 (林道滝向線)						
【事業量】						
伐採距離：99m						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
<p>倒木等によりライフラインが断絶されるおそれがなくなり、周辺地域の住民が住み慣れた環境で安全・安心な暮らしを継続していくことが可能となる。</p>						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
<p>強風や大雨の後に巡視を行い、倒木など異状の発見に努めている。</p>						
【新たな対策・視点及び改善点】						
<p>本市の集落の立地条件においては、森林に囲まれた集落間道路の危険を未然に防ぐことは、周辺地域住民の日常生活を維持するために必要不可欠であり、継続して危険の除去に努める必要がある。</p>						

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	暮らしを守る危険木伐採事業				
事業費	502,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			502,700		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

本事業で行う危険木伐採は地質や樹木の形状などによって作業方法が異なるため、類似業務の実績が豊富であり、専門的な知識と技術を有する森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	3集落（井戸町・木本町・飛鳥町…3,091世帯・5,709人）
期待する波及効果	周辺を利用する観光客への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

道路に隣接する森林には複数の森林所有者が存在しているため、早期の整備を行うためには道路管理者である市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

道路管理者である熊野市が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。
のぼり設置	実施中	工事箇所に県民税ののぼり旗を設置した。
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

買い物や通勤の利便性が向上し、住み慣れた環境で今後も安心して暮らすことができると喜ばれている。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

事業名	暮らしを守る危険木伐採事業
-----	---------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
伐採工 (低)	高所作業車 (12m) 使用	m	9.00	553	4,977	
伐採工 (高)	高所作業車 (22m)、油 圧ショベル (0.20) 使用	m	90.00	3,642	327,780	
諸経費					127,000	
			小計		459,757	
			小計 (調整後)		459,000	
			消費税及び地方税相当額		45,900	10%
			合計		504,900	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	暮らしを守る危険木伐採事業
-----	---------------

7 の (1) . 写真



写真1

施工前①



写真2

施工後①

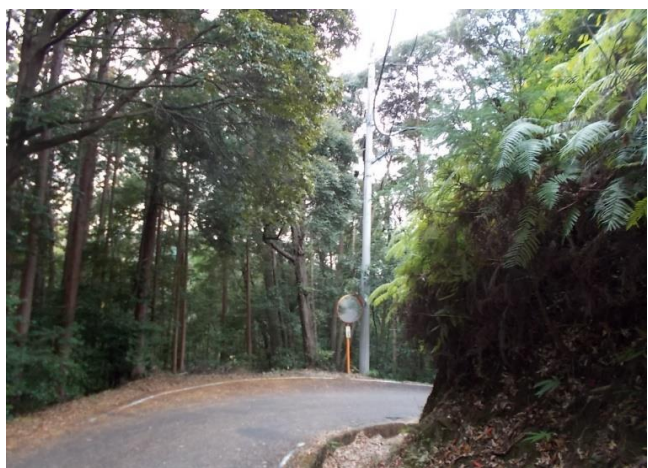


写真3

施工前②



写真4

施工後②



写真5

施工前③

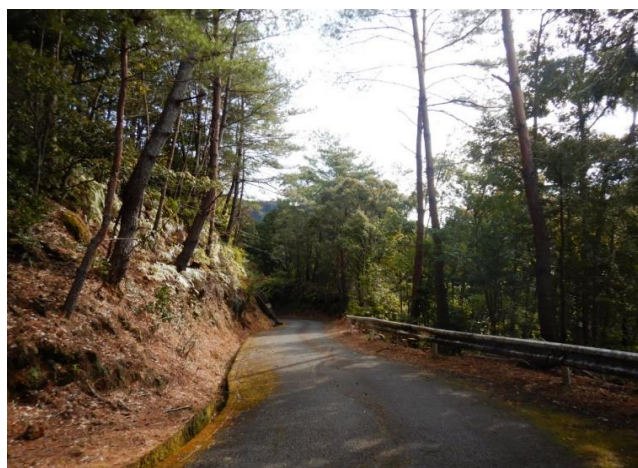


写真6

施工後③

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	暮らしを守る危険木伐採事業
-----	---------------

7 の (1) . 写真



写真1
施工中①

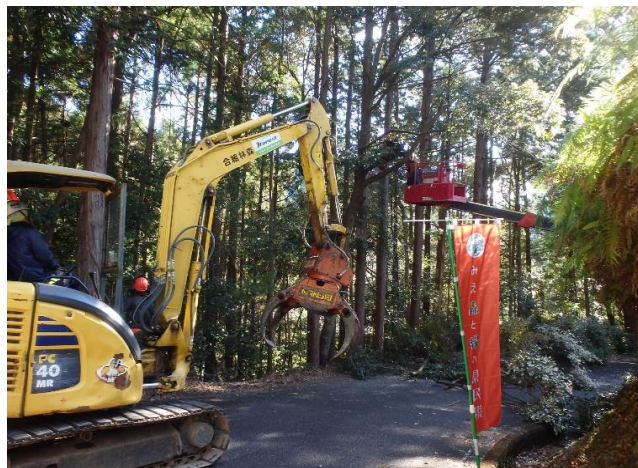


写真2
施工中②



写真3
施工中③



写真4



写真5



写真6

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	景勝林等保護事業				
事業費	1,205,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,205,600		

1. 事業の目的

当市を代表するサクラ林の鬼ヶ城園地では、さくら類てんぐ巣病の症状が出始めているため、将来にわたって訪れる人々がサクラを楽しむことができるよう、てんぐ巣病に侵された木の伐採と今後のクマノザクラへの樹種転換の可能性に対する実証実験を行うことにより、景勝林としての役割を維持し、地域の身近な森林環境の適正な管理を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の景勝林として資源化している鬼ヶ城園地において、さくら類てんぐ巣病に侵されたサクラを伐採し、患部を林外へ搬出処理するとともに、今後のクマノザクラ林の造林に向けた試験植栽を実施した。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

熊野市 (委託先: 三重くまの森林組合)

【実施個所及び箇所数】

支障木伐採・地拵え: 1 箇所、クマノザクラ植栽: 1 箇所

【事業量】

支障木伐採・地拵え: 0.07ha (対象はカンヒザクラ 2 本、ソメイヨシノ 9 本ほか雑木)、クマノザクラ植栽: 実生苗 45 本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

市の花木に指定しているクマノザクラを樹勢の落ちたソメイヨシノ等に置き換えることで、サクラの名所である鬼ヶ城園地が次の世代においても景勝林として訪れる人々を魅力し、サクラ観賞や散策など林内をさらに快適に利用するための環境づくりを行うことができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

クマノザクラの育成状況を見るため、定期的な観察や樹木医へ助言を求めるなど、適切な保育に継続して取り組んでいく。

【新たな対策・視点及び改善点】

サクラ観賞のほか、熊野古道への散策など、これまでも適切な整備を行うことで快適な利用が可能になっていると市内外から好評を得ているため、今後も継続して整備を行う必要がある。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	景勝林等保護事業				
事業費	1,205,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,205,600		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	森林組合	補助事業ではない			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
本事業で行う山林内での病木伐採は地形の状況から難易度が高く、また、さくら類てんぐ巣病の判定についても樹木に関する知識が必要であるため、山林内での作業に豊富な実績を持ち、専門的な知識と技術を有する森林組合に委託するのが適当であると判断した。					
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	年間予想利用者30,000人				
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる				
【公的関与の必要性】					
施設管理者である市が行うのが適当である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。また、生育状況を見ながらクマノザクラへの樹種転換への検討を進めていく。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。			
のぼり設置	実施中	工事箇所に県民税ののぼり旗を設置した。			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。			
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。			
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
病木の伐採により、付近の鬼ヶ城センター側からも園地を眺望できるようになったため、サクラ林としての園地のさらなるPRにつながっている。					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市
------	--------------------	-----	-----

事業名	景勝林等保護事業
-----	----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木伐採		ha	0.07		525,900	
					525,000	調整後 (支障木伐採)
地拵え		ha	0.07	289,078	20,235	
					20,000	調整後 (地拵え)
植栽	クマノザクラH=1.7m内外	本	45.00	5,191	233,595	
					233,000	調整後 (植栽)
諸経費					318,000	
小計					1,096,000	
消費税及び地方税相当額					109,600	10%
合計					1,205,600	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	景勝林等保護事業
-----	----------

7の(1). 写真



写真1

施工前①



写真2

施工後①

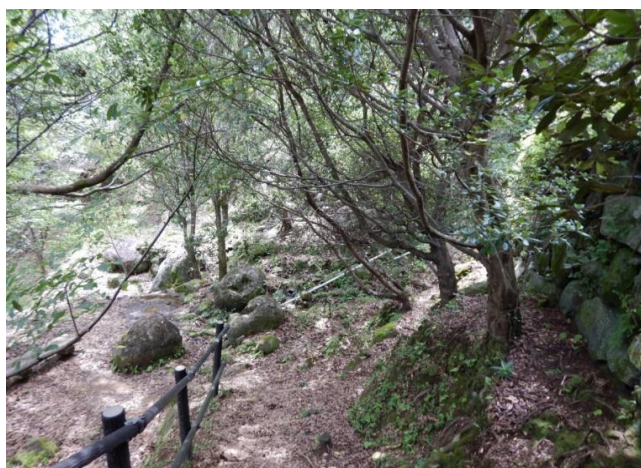


写真3

施工前②



写真4

施工後②



写真5

施工前③



写真6

施工後③

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	景勝林等保護事業
-----	----------

7 の (1) . 写真



写真1
施工前④

写真2
施工後④



写真3
施工中① (支障木伐採)

写真4
施工中② (てんぐ巢病処理)



写真5
施工中③ (植栽)

写真6

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
5	クマノザクラ整備・保全管理等事業				
事業費	2,378,080 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,378,080		

1. 事業の目的

市内各所にクマノザクラのポット苗を設置することで、訪れる人々が身近に樹木に親しみ、森林や緑を大切にすることを育むとともに、市の花木に指定しているクマノザクラへの理解を促進し、県民一体となって保全と増殖を図る。また、最大級のクマノザクラとして稀少なクマノザクラの大木の治療を行うことにより、貴重な地域資源の保全に取り組んでいく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

樹幹に亀裂の入った紀和町赤木地区の「赤木桜」の治療を行ったほか、観光集客施設や教育文化施設など市内各所にクマノザクラの大型ポット苗を設置し、多くの人々がクマノザクラに親しむ環境づくりを行った。また、樹木医とともに市内における新植地の調査を行い、今後の新植と保育に対する方針を検討した。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

熊野市 (委託先: 木楽Nakamura)

【実施個所及び箇所数】

裂傷治療: 1 箇所、ポット苗配布: 25 施設、新植地等調査: 4 箇所

【事業量】

裂傷治療: 1 本 (赤木桜)、ポット苗配布: 90 個、新植地等調査: 4 箇所のうち 2 箇所で行った新植を実施 (計 105 本)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

市内外の人々が利用する観光施設や、将来の担い手である児童・生徒が集う校舎などへクマノザクラを整備することにより、森林や樹木を大切に、クマノザクラ保全への理解を深めるとともに、優れた景勝木としてのクマノザクラの保全管理を通じて、地域住民の参加を呼び込み、クマノザクラを活用した地域振興を図る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

適切にポット苗を管理していくために、定期的にポット苗を観察し、施設管理者等へ保育方法の指導を行っていく。

【新たな対策・視点及び改善点】

赤木桜を治療することにより、貴重なクマノザクラの大木を次世代に引き継いでいくことができる。また、既存の施設へクマノザクラのポット苗を配置することにより、当該施設の新たな魅力が付与され、さらに多くの利用につながるが見込まれる。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
5	クマノザクラ整備・保全管理等事業				
事業費	2,378,080 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,378,080		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	造園業者	補助事業ではない			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
本事業で取り扱うクマノザクラは新種の景勝木であるため、確実に定着させるためにはクマノザクラの発見当初からクマノザクラを調査・研究している専門家への委託が適当であると判断したため。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	赤木桜：300人、ポット苗配置施設：計60,000人				
期待する波及効果	周辺を利用する観光客への波及効果も期待できる				
【公的関与の必要性】					
赤木桜の治療と公共施設や小中学校へのポット苗の配置については施設管理者である市が事業を行うのが適当である。また、市内の観光集客施設や宿泊施設へのポット苗配置についても、まだ発見されてから間もないクマノザクラの普及を推進する中心的な役割を市の花木として指定をした市が果たするのが適当である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設管理者が適正に管理していく。民間施設に対しては市が定期的な観察を行い、管理者に必要な指導を行っていく。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。			
のぼり設置	実施中	工事箇所に県民税ののぼり旗を設置した。			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。			
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。			
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
貴重なクマノザクラの保全をする意義を市は分かっている。これからもクマノザクラの保全と普及を市で進めてほしい。 (赤木桜の治療に対する意見)					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	熊野市
------	-------------	-----	-----

事業名	クマノザクラ整備・保全管理等事業
-----	------------------

4. 効率性：主な経費内訳

(クマノザクラ保全業務委託 (赤木桜の治療))

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
治療・補強作業		式	1.00		450,000	
諸経費		式	1.00		150,000	
			小計		600,000	
			消費税及び地方税相当額		60,000	10%
			合計		660,000	

(クマノザクラのポット苗購入)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
クマノザクラポット苗	実生苗H=100~150 ポット径65cm×50cm	セット	90.00	17,160	1,544,400	
			小計		1,544,400	
			消費税及び地方税相当額		154,440	10%
			合計		1,698,840	
			入札後		1,698,400	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	クマノザクラ整備・保全管理等事業
-----	------------------

7の(1). 写真

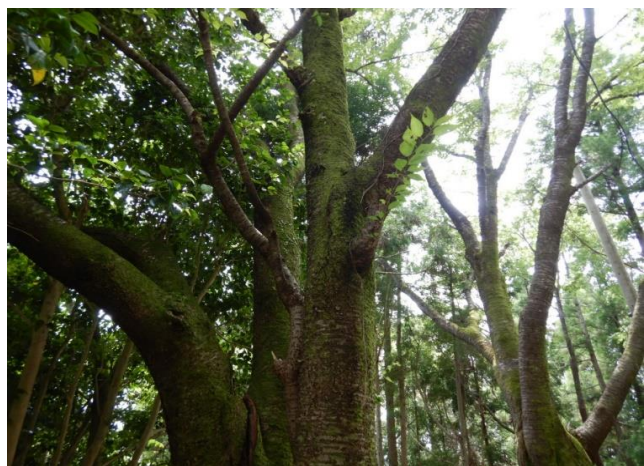


写真1

「赤木桜」裂傷治療 施工前

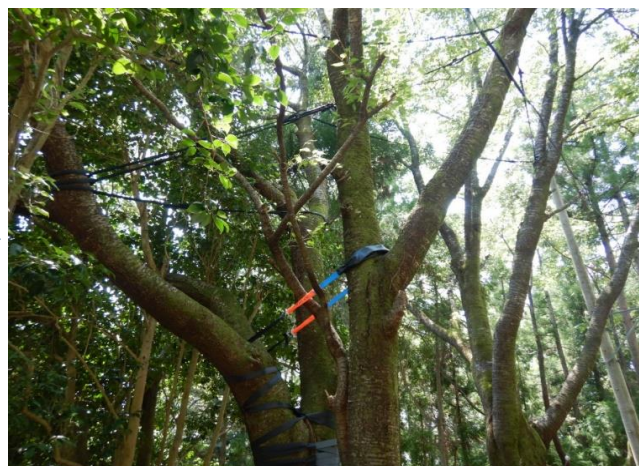


写真2

「赤木桜」裂傷治療 施工後



写真3

「赤木桜」裂傷部



写真4

「赤木桜」施工後①



写真5

「赤木桜」施工後②



写真6

「赤木桜」施工後③

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	クマノザクラ整備・保全管理等事業
-----	------------------

7の(1). 写真



写真1

クマノザクラポット苗 設置中①



写真2

クマノザクラポット苗 設置中②



写真3

クマノザクラポット苗 設置中③



写真4

クマノザクラポット苗 完成①



写真5

クマノザクラポット苗 完成②



写真6

クマノザクラポット苗 完成③

対策区分		市町名	熊野市
------	--	-----	-----

事業名	情報発信(各事業共通)
-----	-------------

7. 写真



写真1
パネル展示①(熊野市文化交流センター)



写真2
パネル展示②(熊野市文化交流センター)



写真3
HP掲載①



写真4
HP掲載②(前年度(R2)事業実績紹介部分)

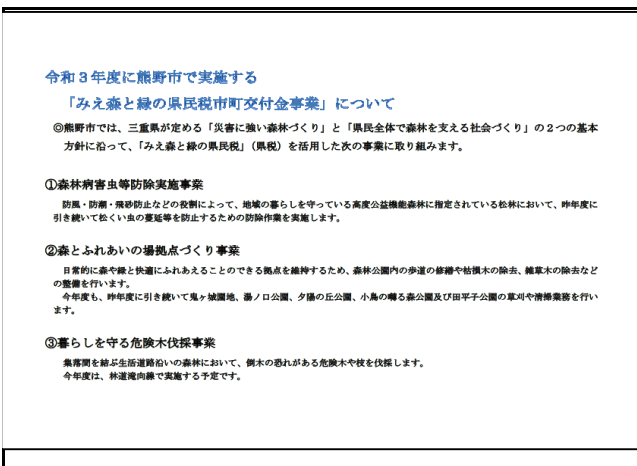


写真5
HP掲載③(R3事業紹介部分)



写真6

御浜町

令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

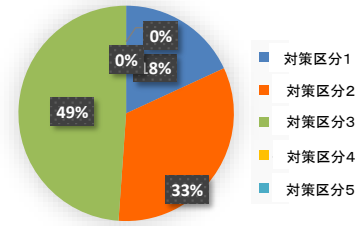
市町名	御浜町	三重県
人口 (人)	8,800	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	11.0%	12.4%
森林面積 (ha)	5,691.76	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	5,598.49	348,833.49
森林率 (%)	65.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	20.4	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	5	森林公園等環境整備事業	1,697,300	1,697,300	1,697,300					
2	4	中央公民館木質化事業	3,091,800	3,091,800		3,091,800				
3	4	道の駅等木製看板設置事業	4,577,500	4,577,500			4,577,500			
				0						
				0						
				0						
				0						
				0						
計			9,366,600	9,366,600	1,697,300	3,091,800	4,577,500	0	0	0

3. 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	長期にわたる木材価格の低迷により未整備森林の増加が懸念されており、公益的機能を十分発揮できない森林の整備については森林環境贈与税を活用して整備を行い、一方県民税では、森林公園等のフィールド整備を行うことにより、住民が森林や緑とふれあう機会を創出し、また森林環境教育を行う公共施設等で木材を利用することにより、木材の良さを伝え、木材を使うことが森林整備につながることへの理解を深めていく。
事業実施により期待される効果	多くの児童が利用する図書館での備品等の木質化を行い、県産材に触れながら森林についての学習ができる場を提供することができた。また、森林公園の整備を行うことにより、住民に森や緑に触れ合う機会を創出することができた。
情報発信への取組	町民や施設利用者へ県民税を活用して整備が行われていることを周知するため、作業期間中に県民税ののぼり等の設置、庁舎内でのパネル掲示、事業により導入した備品等への県民税ロゴマークの貼付、事業実施施設への県民税ポスターの掲示を実施した。

第 1 1 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	3,879,700	3,879,700
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	3,879,700	3,879,700

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	森林公園等環境整備事業				
事業費	1,697,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,697,300		

1. 事業の目的
健康づくりの一環として山歩きや森林浴など、森林とのふれあいにより健康づくりを行おうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、住民が緑にふれられる場として親しまれている。登山道、公園及び東屋周辺を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境を身近なものにする。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>浅間山登山道の整備、寺谷公園及び川瀬東屋周辺の除草と支障木伐採</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>御浜町</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>4箇所 (浅間山、寺谷公園、川瀬東屋周辺)</p> <p>【事業量】</p> <p>3箇所歩道整備0.90ha下刈り3.33ha支障木伐採0.5ha</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>多くの町民や来訪者に利用される登山道及び公園を整備することで、多くの人々が森林や緑とふれあうことができる。寺谷公園は地域の小学校の遠足先であり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれあう環境をより身近なものにできる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>森林にふれあう環境をより身近なものにするため、公園内の主要な眺望点を重点的に整備を行った。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>小学校の遠足等に併せて森林教育の実施を検討する。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	森林公園等環境整備事業				
事業費	1,697,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,697,300		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	森林組合	補助事業ではない	該当なし		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
過去の実績等を勘案し、森林組合等 3 社以上で見積合わせを行い委託した。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	施設年間利用者数約9000人				
期待する波及効果	小学校の遠足等により子供たちが緑にふれあうことができる。				
【公的関与の必要性】					
町営の森林公園及び散策路の整備である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
町営施設であり、転用や目録外使用の想定はしていない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施前・中	利用者に対し税を活用していることを周知する。			
のぼり設置	実施中	利用者に対し税を活用していることを周知する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

寺谷総合公園



写真2

浅間山



写真3

寺谷総合公園

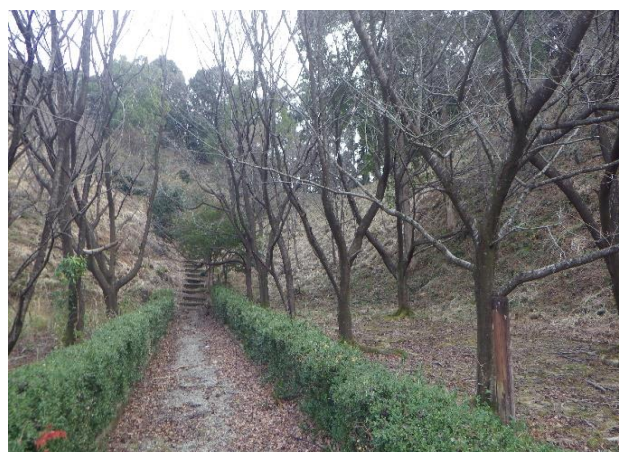


写真4

寺谷総合公園



写真5

寺谷総合公園



写真6

川瀬東屋周辺

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	中央公民館木質化事業				
事業費	3,091,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,091,800		

1. 事業の目的
<p>平成 2 5 年 8 月、御浜町では公共建築物等木材利用方針を定め、町が整備する公共建築物においては率先して木材を利用することとしている。そこで、木づかいを通じて森林を支えるため、御浜町立の公民館における木材製品の導入や施設の木質化などを通じて、木材利用を促進し、木材と町民との関係を深める。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>木製製品の導入</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>御浜町</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>1 箇所 (御浜町立中央公民館)</p> <p>【事業量】</p> <p>1 箇所施設利用者約 20000 人イス×4、机×1、ベンチ×2、移動書架×4、展示用書架×2</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>公共施設である公民館の木質化を行うことで、町民が木にふれあう空間ができる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>令和 3 年 12 月にみえ森林教育ステーションの認定を受けることにより、当事業などで導入した木製品に気軽にふれられるようにする。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>事業実施結果のパネル展示を役場内で行い、住民に森林づくりの重要性の周知を行う。また、事業者及び施設利用者に対し、県民税による整備であることを説明し、森林づくりの重要性を PR する。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	中央公民館木質化事業				
事業費	3,091,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,091,800		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない	該当なし		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
過去の実績等を勘案し、木製家具製造等業者 5 社以上で見積合わせを行い委託した。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	町民等年間利用者数約20000人				
期待する波及効果	町の文化拠点であり、多くの町民等の利用がある。				
【公的関与の必要性】					
公共建築物等木材利用方針による町営施設の木製品導入である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
町営施設であり、転用や目録外使用の想定はしていない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に森林づくりの重要性を周知す			
ポスター掲示	実施後	事業箇所にポスター等を掲示し、税を活用していることを周知する。			
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施中・後	木製品にロゴマークを表示し、税を活用していることを周知する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町
------	-------------------	-----	-----

事業名	中央公民館木質化事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考			
テーブル		台	1.00	}	99,800				
椅子		脚	4.00						
ベンチ		台	1.00						
本棚		台	2.00	}					
マガジンラック①		台	2.00						
マガジンラック②		台	1.00				}	2,992,000	2,992,000
リーフレット棚		台	2.00						
木パネル		台	1.00						
			合計		3,091,800				

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	中央公民館木質化事業
-----	------------

7の(1). 写真

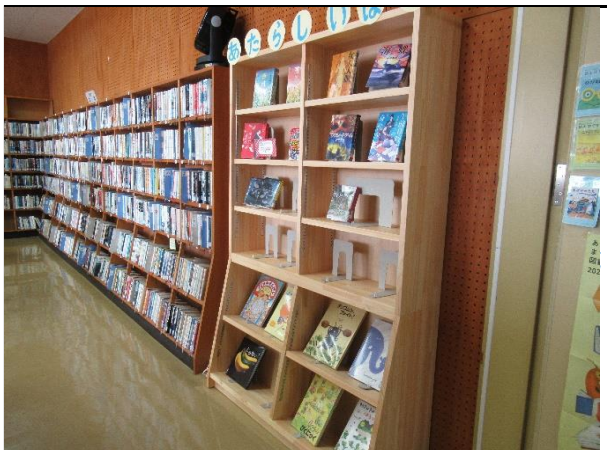


写真1

中央公民館本棚等



写真2

中央公民館本棚等



写真3

中央公民館本棚等



写真4

中央公民館本棚等



写真5

中央公民館本棚等



写真6

中央公民館テーブル等

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
1	道の駅等木製看板設置事業				
事業費	4,577,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,577,500		

1. 事業の目的

町内の施設に県産材を使用した木製看板を設置することで、地域住民や施設利用者に県産材の良さや活用の意義を広くPRし、県産材の利用促進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

道の駅パーク七里御浜、産直市場みはまロコ、七里御浜ツーリストインフォメーションセンター (TIC) の木製案内看板の設置。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

御浜町

【実施個所及び箇所数】

2 箇所 (道の駅駐車場内)

【事業量】

県産材木製看板設置2箇所

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

利用者の多い道の駅等に木製看板を設置することで利用者に県産材の良さや活用の意義を広くPRし、県産材の利用促進を図ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

設置施設に町内産品の販売施設があるため、木製看板の設置により県産材の良さや活用方法を身近に感じるきっかけづくりとなる。

【新たな対策・視点及び改善点】

道の駅駐車場等の施設外部に表示することにより木製品使用を広くPRする。

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
1	道の駅等木製看板設置事業				
事業費	4,577,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,577,500		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	木工製造業者	補助事業ではない	該当なし	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町内で類似事業の実績を有する事業者に委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	施設利用者約 3 0 0 0 0 0 人
期待する波及効果	町内で一番集客のある施設であり、利用者へ視覚的にPRできる。

【公的関与の必要性】

公共建築物等木材利用方針による公共施設等の木製品導入である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町出資法人等により運営する観光、産直販売施設であり、転用、目的外使用は想定していない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中	看板にロゴマーク等を表示し、税を活用していることを周知する。
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施中・後	看板にロゴマーク等を表示し、税を活用していることを周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	道の駅等木製看板設置事業
-----	--------------

7 の (1) . 写真



写真1
みはまロコ



写真2
みはまロコ屋根看板



写真3
みはまロコ、インフォメーションセンター看板



写真4
パーク七里御浜看板



写真5
パーク七里御浜木製看板 (照明カバー)



写真6

紀宝町

令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報: 「三重県市町要覧 (令和元年度版)」、「平成30年度版森林・林業統計」による

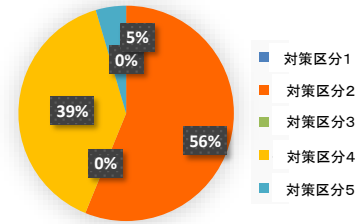
対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5

市町名	市町名	三重県
人口 (人)	10,588	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	11.8%	12.4%
森林面積 (ha)	6,073.00	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	6,027.34	348,833.49
森林率 (%)	76.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	7.6	10.1

* 1: 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2: 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3: 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	生活環境林整備事業	3,598,705	3,598,705		3,598,705				
2	5	クマノザクラ整備事業	291,771	291,695					291,695	
3	4	放課後児童クラブ施設木製品購入事業	2,514,600	2,514,600				2,514,600		
4	2	みえ森と緑の県民税市町交付金積立金	2,842,000	2,842,000						2,842,000
				0						
				0						
				0						
				0						
計			9,247,076	9,247,000	0	3,598,705	0	2,514,600	291,695	2,842,000

3. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) - (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	10.78	5,632,000	5,632,000	間伐事業
流域防災機能強化対策事業	1.95	1,074,700	1,074,100	間伐事業
流域防災機能強化対策事業	14.3	493,900	493,900	測量事業

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	みえ森と緑の県民税市町交付金においては、森林環境譲与税を財源とした森林施策とすみ分けをおこないながら、町の森林主要施策としての重要財源と位置づけて活用していく。
事業実施により期待される効果	当町が公益性の判断のもと実施する事業においては、特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に影響を及ぼすものが多く、町民のみならず周辺の県民が恩恵を受けている。
情報発信への取組	各種集客イベントの際、県民税のPRをパネル展やチラシの配布によりおこなっている。登り旗の掲示も行った。その他、町ホームページ、役場庁舎内においてのパネル展の実施など。

第 1 1 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 3 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑦ その他 (森林整備)	15,001	15,001
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	12,180	6,044
3	⑰ 基金積立 (森林整備等)	1,311	1,311
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	28,492	22,356

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	生活環境林整備事業					
事業費	3,598,705 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,598,705			

1. 事業の目的
公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地の整備や危険木等の伐採または枝下ろしすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図った。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>紀宝町</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>2 地区 (大里、鶴殿) 公共施設・生活道周辺緑地</p> <p>【事業量】</p> <p>2 地区支障木伐採</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>今後も森林所有者 (町・個人) により適切に管理する。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>住民からの要望が多く、事業効果が高いことから、継続して事業に取り組んでいる。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	生活環境林整備事業					
事業費	3,598,705 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,598,705			

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者 森林組合	補助事業ではない	該当なし	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

紀宝町内において、伐採、下刈り等森林整備の実績がある業者及び町建設業組合に加盟している業者。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	2 地区（大里、鶴殿）の住民
期待する波及効果	公共施設や生活道周辺等の環境が良好になり、災害時等の倒木の危険性が減る。

【公的関与の必要性】

町有地の整備又は、個人所有の山林であるが、危険性が高く個人での対応が困難な場所の整備の為、町で整備を行った。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者による管理のもと、危険木等の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中	関係近隣住民等に対し周知
パネル展示	実施後	紀宝町役場内でのパネル展において全町民に対し取組を周知

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、緑地整備により、景観も良くなった。

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町
事業名	森林公園等環境整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木、危険木 伐採	鶉殿矢淵中学入口	式	1.00	1,987,700	1,987,700	
	鶉殿地区町道支障木伐採	式	1.00	234,905	234,905	
緑地整備	大里地区(京ノ城跡) 緑地整備	式	1.00	654,500	654,500	
	鶉殿地区公共施設周辺緑地整備	式	1.00	721,600	721,600	
				合計	1,376,100	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

矢淵中学校入口 町有地 危険木 伐採後(鵜殿地区)



写真2

矢淵中学校入口 町有地 危険木 伐採後(鵜殿地区)



写真3

自然公園 緑地整備(鵜殿地区)



写真4

自然公園 危険木 伐採(鵜殿地区)

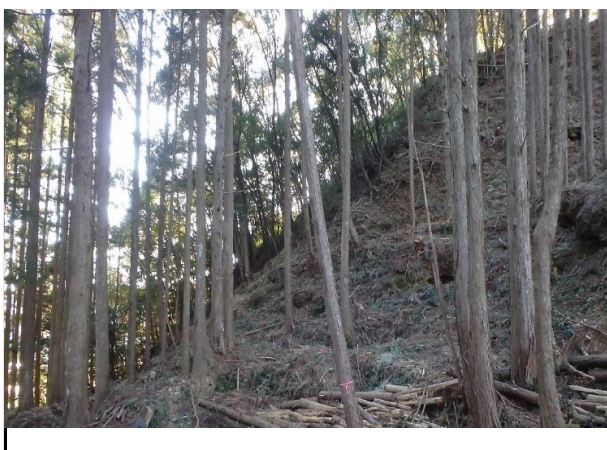


写真5

京城跡 支障木伐採等 緑化事業 施工前



写真6

京城跡 支障木伐採等 緑化事業 施工後

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	クマノザクラ整備事業					
事業費	291,771 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			291,695		76	

1. 事業の目的
野生種の桜として、2018年に約100年ぶりの新種発見と発表された紀伊半島南部の「クマノザクラ」を新種と確認した森林総合研究所の勝木俊雄氏や三重県樹木医の中村昌幸氏と連携し、地元における整備の取組みを行った。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>森林総合研究所の勝木俊雄氏と三重県樹木医の中村昌幸氏の研究により生成された、クマノザクラの苗木を浅里地区において、浅里区民や地元のNPO法人「熊野さくらの会」、三重トヨペット（苗木の提供）と連携し、植樹及び経過観察等を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】</p> <p>紀宝町</p> <p>【実施箇所及び箇所数】</p> <p>浅里地区（2箇所）</p> <p>【事業量】</p> <p>クマノザクラ苗木42本の整備</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>クマノザクラに対する理解や関心が高まるとともに、植樹による整備場所の価値向上、森林に対する理解を深めることができた。また、三重トヨペットからの苗木の寄贈により、多くのマスコミ関係者に取り上げていただき、当地域のPRにも貢献した。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>クマノザクラについての普及啓発、今後の研究箇所として活用。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>例年行っている事業で、効率的かつ事業の趣旨から最適な場所を選定した。</p>

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	クマノザクラ整備事業				
事業費	291,771 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			291,695		76

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
その他	その他	補助事業ではない	該当なし	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
森林の植栽及びクマノザクラについての見識が深い方でないと施業が困難な植栽箇所は委託により行い、その他の場所については、役場職員、NPO法人熊野さくらの会員、浅里地区住民により植栽した。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	浅里地区住民、NPO法人熊野さくらの会 浅里地区キャンプ場利用客			
期待する波及効果	地元住民や浅里地区のキャンプ場の利用客等に広く			
【公的関与の必要性】				
貴重な品種の植物であることから、行政機関、研究機関等の助言等周知は、必須である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
町及び浅里地区等関係機関による管理のもと、転用や目的外使用は想定されていない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
チラシ等配布	実施前	整備近隣町民等に周知		
TV（行政チャンネル等）	実施中	事業の様子を放映		
パネル展示	実施後	紀宝町役場内でのパネル展において全町民に対し取組を周知		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
今後のクマノザクラの成長に期待を寄せる声が多く集まった。自生しているクマノザクラの調査へ関心を寄せる声も多くあがった。				

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	クマノザクラ整備事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

三重トヨペット 苗木寄贈



写真2

クマノザクラ整備 (浅里 和田地区 掘削)
(浅里地区住民、NPO法人熊野さくらの会 協力)

写真3

クマノザクラ整備用資材 (肥料・獣害対策資材) 一式



写真4

クマノザクラ整備状況 (浅里 和田地区)



写真5

クマノザクラ整備 (浅里 和田地区)
(浅里地区住民・NPO法人熊野さくらの会 協力)

写真6

クマノザクラ整備 (浅里 キャンプ場)
(浅里地区住民・NPO法人熊野さくらの会 協力)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	放課後児童クラブ施設木製品購入事業				
事業費	2,514,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			602,600	1,912,000	

1. 事業の目的					
紀宝町福祉センターの大規模改修が終了し、町から委託を受けている放課後児童クラブ (町内 1 箇所) の場所も新しくなった。学習する場と遊びの場が分けられ、今後快適に利用できるようになるものの、関連備品までの新規購入には至っていない。そこで、当事業により、新しく三重県の木を使ったテーブル・椅子を購入し、より快適なまなびの場を提供した。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
三重県の木 (紀宝町産) を使った学習机・椅子を整備した。					
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】					
紀宝町社会福祉協議会					
【実施個所及び箇所数】					
紀宝町社会福祉協議会 (鶴殿施設・放課後児童クラブ学習室) 1 箇所					
【事業量】					
机 (9) 椅子 (52)					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
今までは、座卓に座って自主学習を行っていて、集中力がなくなるとすぐに寝転がったりする子が多かった。テーブル・椅子を導入したことで、集中力が増し、スムーズに学習に取り組むことができ、さらに木に触れ合うことで、香りやぬくもり等木の良さに関心を持つ機会が得られた。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
放課後児童クラブとして、施設管理者及び児童等へ木の良さに触れ合う機会を与える場である。					
【新たな対策・視点及び改善点】					
施設内で適切に児童に木に触れ合う機会を与える為に活用。					

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	放課後児童クラブ施設木製品購入事業				
事業費	2,514,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			602,600	1,912,000	
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
補助事業	その他	10/10以内			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
紀宝町から施設管理者（社会福祉協議会）へは補助。社会福祉協議会から備品導入については、入札を実施し、三重県産材により納品できる業者を落札価格の低い業者から選定。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	放課後児童クラブ（きほっこ）令和2年度登録者数66名（長期休暇のみ利用者も含めて）延べ利用者数7,610名				
期待する波及効果	施設管理者及び児童等へ木の良さに触れ合うことができる。				
【公的関与の必要性】					
紀宝町から委託している事業体であり、補助として実施している為、必須である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
紀宝町及び社会福祉協議会による管理を実施。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
チラシ等配布	実施前	放課後児童クラブ利用者に周知。			
パネル展示	実施後	紀宝町役場内でのパネル展において全町民に対し取組を周知			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
施設の管理者及び児童から木の香りやぬくもりの良さについての声が上がった。					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	放課後児童クラブ施設木製品購入事業
-----	-------------------

7の(1). 写真



写真1

導入前の状況写真



写真2

工事中の学習室



写真3

机 (9)



写真4

椅子 (52)



写真5

焼き印プレート



写真6

写真6